

高温・低温環境を起因物とする高温・低温物との接触の死亡災害発生事例（1999-2021年）

発生年	発生月	時間	死傷災害発生事例	小業種コード	労働者規模
2021	5	16～18	建物の基礎（地下1.5m）の型枠解体作業に従事していた一次下請所属の作業員の男性が熱中症により死亡したもの。同社の現場主任が、被災者の動きが鈍く怠そうな様子であったため、現場の休憩所で休憩させていた。数分後、現場主任が声をかけて体をゆすると倒れこみ、動けなくなっていた。救急搬送され治療を受けたものの、死亡した。	30201	10～29
2021	7	10～12	建物の基礎（地下約7m）のコンクリート打設補助作業に従事していた一次下請所属の作業員の男性が熱中症により死亡したもの。午前中の作業を終え、昼休憩に入ってからすぐに体調が悪化、すぐに救急に連絡し、意識不明の状態で搬送された。集中治療室で治療を受け、一般病棟に移るも、すぐに肺に血栓が見つかり様態が急変。翌日死亡した。	30201	1～9
2021	7	12～14	工事現場内において、材料空き袋の片付け等の軽作業に就いていた被災者が、昼休憩に入る際に体調不良を訴えたため、社有車内で身体を冷やすなどしていた。しばらくして呼びかけに反応がなくなったため、社有車で近隣の病院へ搬送後、ドクターヘリで総合病院に移送され、数日後に熱中症による多臓器不全で死亡したもの。	30199	10～29
2021	7	12～14	被災者は朝から展示場の洗車を開始。その後15分の休憩をし、洗車を再開したが、正午ごろに派遣先のスタッフが車両移動のため近くを通った際、倒れている被災者を発見した。その後、休憩室では同僚らが何度か病院への受診を促すも「大丈夫だから」と拒んでおり、症状が悪化し救急車を手配。その際に初めて頭部からの出血を確認。搬送先の病院で後日、死亡した。	80202	50～99
		12	民間発注の擁壁の改修作業に従事していた一次下請所属の作業員の男性が熱中症により死亡したもの。同社の事業主が、具合が悪そうな様子の被災者を		

2021	7	～	現場近くの民家の玄関前で休憩させていた。数時間後、同社の事業主が、被災者に声をかけて頬を叩いたが、意識がなかった。その後、被災者は、救急搬送されたものの、同日中に死亡した。	30199	1～9
2021	7	～	前日から夏バテ気味であったが、あまりにも被災者の様子がおかしいため、代表取締役の指示により早退し、夜に医療機関を受診したものの、PCR検査のみで帰宅。翌日、脱水症状が認められたため、点滴を受けていたがその最中に心停止し、救急転院となった。その後転院先で心拍は再開したが、意識は戻ることなく、低酸素脳症により死亡。	80209	1～9
2021	7	～	被災者は、夕方頃、事業場資材置場内で型枠資材の整理作業を終え、敷地内の休憩室に戻ろうとした際、脱水症状を発症、同僚が休憩室内で給水等の手当を施し、被災者は快方に向かったため帰宅したが、翌日、容態が急変し救急搬送され熱中症により死亡した。なお、気象庁発表による当日の気温は32.7度、湿度は43%であった。	30209	10～29
2021	7	～	被災者含む4名で市道の維持作業のため、道路沿いを手押し式草刈機で草刈り作業中、被災者が作業をしながらふらついていたため、近くに停車していたパッカー車の車内で冷房をつけて休憩をさせていたところ、被災者の意識が朦朧となったため、救急車を要請、病院に搬送されたが熱中症により死亡したものの。	30199	10～29
2021	8	～	炎天下の国道改良工事の現場においてポリエチレン管の組立て作業をしていたところ、熱中症を発症したものの。被災者は災害発生日に救急搬送されたが、後日死亡が確認された。	30106	30～49
2021	8	～	選果場内の選果業務を請け負っている派遣先事業場にて、勤務していた被災者が、顔面蒼白、発汗を伴い、意識不明となり倒れ、呼びかけにも反応がなく、医療機関に搬送途中に心肺停止状態となり、死亡が確認されたもの。なお、被災者は当該派遣先で勤務し始めてから2日目の出来事であった。	40301	1～9
		14	個人住宅の車庫建築工事において、午前中に車庫の基礎工事部分の型枠の枠組み作業を被災者を含め2名で行ったのち、午後からコンクリート打設作業を事業主含む3名で行った。被災者は猫車を用いてコンクリートの運搬作業		

2021	8	～ 16	を行っていたところ、足がふらついていたため、休ませた。被災者は現場横の日陰で横になったが、約10分後に同僚が様子を見に行ったところ意識がなかったため、緊急搬送されたが、死亡した。	30209	1～9
2021	8	16 ～ 18	水道管敷設工事において、警備員として道路上で交通誘導業務を行っていたところ、路肩で転倒し、法面を転げ落ち側溝に転落。被災後、直ちに救急搬送されたが熱中症による急性心不全で死亡した。災害発生日の気温は32.5℃（参考値）。	170201	10～ 29
2021	8	16 ～ 18	災害発生当日、被災者は、ビニールハウス内においてきゅうりの収穫、誘引作業を行った。夕方、同僚に体調不良を訴え、休憩室で体を冷やした。やや回復したため、送迎車で帰宅していたが、途中、車内で意識を失い死亡した。	60101	30～ 49
2021	8	10 ～ 12	当日被災者はD定盤にある船体ブロックトップ上で、玉掛用ピースをガス溶断する作業に朝から従事していた。30分間の休憩が終わり、作業現場に戻ってきたところ、同僚に体調不良を訴えて、日影に腰を下ろして座ったが、そのまま倒れ込み嘔吐した。現場で身体を冷やすなどの応急処置を実施し、被災者に呼び掛けたものの応答せず。到着した救急車で病院に搬送され、救命処置を行ったものの死亡した。	11501	1～9
2021	8	12 ～ 14	アパートの改修工事現場において、1次下請事業場の労働者である被災者は、昼頃体調が悪くなり、事業場の代表者に休憩するよう指示された。被災者は飲料を購入するため、現場近くの自動販売機まで歩いていたところ、道中で意識を失い倒れた。通行人が倒れている被災者を発見し、病院に救急搬送されたが、翌日死亡した。	30209	10～ 29
2021	8	14 ～ 16	被災者は、個人宅において、午後1時過ぎ頃から個人宅の屋根に設置された太陽光パネルの点検清掃作業等を行っていたところ、午後2時頃、個人宅1階廊下に倒れているのを住人に発見され、病院に搬送されたが熱中症により死亡したもの。（点検営業チームによる出張点検等作業中の災害）	80209	10～ 29
			菌床椎茸の製造工程において、被災者は圧力容器で殺菌した菌床の台車を取		

2021	8	14 ～ 16	り出し室に移動させ、圧力容器の出口の扉を閉めるスイッチを押そうとしたところ、非常停止装置が作動しており扉が閉まらなかった。非常停止装置の解除を行おうとするも解除方法が分からず、取り出し室に計25分滞在していたところ、圧力容器から出てくる熱風により室温が上昇して熱中症を発症。救急搬送されたが、4日後に多臓器不全で死亡したもの。	11709	10～ 29
2021	8	12 ～ 14	当該事業場のポット苗木生産圃場内において、被災者は午前中に苗木の除草作業を行い、午後から日向の場所において植木3本の掘り取り作業を行っていた。植木3本の掘り取り作業が終了し、作業小屋に植木3本を置いた。その後、親会社の車がポット苗木生産圃場内に入場したところ、作業小屋付近の道路上に仰向けで倒れている被災者を発見し、病院に搬送されたが、同日に熱中症の疑いにより死亡したもの。	60101	10～ 29
2021	8	12 ～ 14	被災者は、朝から基礎コンクリート打設に付随する作業に従事していた。休憩し、正午頃からは、差し筋に付着したコンクリートをブラシで清掃する作業を開始した。14時頃、被災者が地上からの深さ約2mの位置にあったベース基礎の横に倒れていたため救急搬送されたが、搬送先の病院で後日死亡した。	30201	30～ 49
2021	8	10 ～ 12	木造2階建て住宅建設工事現場において、地上で仮設電柱に分電盤を取り付ける作業中に倒れたもの。災害発生直後の死体検案書では直接死因は不詳（検査中）であったが、その後の解剖が行われた後の死体検案書の直接死因は熱中症となっている。	30301	1～9
2020	5	12 ～ 14	被災者は、朝から屋外において農業用機械修理を行っていたところ、昼に体調を崩し、日陰で横になっていた。その後、事務所に戻って休憩所で休憩していたが体調が改善せず、夕方に救急車で総合病院へ搬送された。夜に熱中症を原因とする急性心筋梗塞で死亡が確認された。	11702	1～9
2020	7	10 ～ 12	被災者は現場作業中、突然倒れて救急搬送されたが死亡したもの。午前に現場の個人宅の解体作業を重機で行った。被災者は手元作業員として従事した。作業開始から2時間経過した頃に突然倒れ、救急搬送されたが午後2時ごろ搬送先の病院で死亡した。	30202	1～9

2020	7	16 ～ 18	夕方頃、半屋外の出荷スペースで突然倒れ、救急搬送されたが回復せず、当日死亡したもの。	11209	1～9
2020	7	16 ～ 18	産業廃棄物の中間処理場において、屋外で不燃物の分別作業に従事していたところ、夕方頃、倒れているところを上司に発見された。発見時に意識はなく、病院に搬送されたものの、意識不明の状態が続き、翌日熱中症により死亡したもの。	150102	1～9
2020	7	14 ～ 16	農業用ビニールハウスの補強工事にて、屋外で金物加工、コーキング及び補強材取付の作業を行っていた作業員1名が熱中症に罹患し、同日に死亡したもの。被災者は当日の朝から作業を開始してお昼頃に重症化した状態で発見されており、その間に1時間15分の休憩を取っていた。当日の天候は晴れであった。	30209	1～9
2020	8	12 ～ 14	塗装成形部第2塗装課に所属する被災者が、他労働者の使用した作業服（つなぎ）の回収、洗濯業務に従事していたところ、昼食後に手のふるえ、ふらつき等の症状を発症したため、救急搬送された。搬送後心肺停止となり、蘇生行為を行うも死亡したもの。熱中症であった。	11502	1000 ～ 9999
2020	8	12 ～ 14	現場は店舗新築に伴う敷地の開発工事である。被災者は現場作業員として、敷地に隣接した歩道の切下げに伴う清掃作業に従事していた。お昼頃、被災者は休憩のため付近にあった公園の水飲み場に歩いて移動したところ、その途上、公園内にて倒れた。被災後は直ちに病院に救急搬送、重度の熱中症と診断され治療継続されたが翌日に死亡した。	30309	10～ 29
2020	8	14 ～ 16	道路掘削後復旧工事において、アスファルトの舗装作業中、午後に被災者がふらついたので職長が確認した為、休憩を指示し日陰で休ませていたところ、立てなくなる等様態が急転した為、救急車により病院に搬送した。その後、翌日深夜頃に死亡した。熱中症であった。	30106	1～9
2020	8	16 ～	被災者はS造2階建集合住宅の解体工事現場にて、解体により生じた廃材を手作業でフレコンバッグに仕分けする作業を行っていたが、夕方ごろフレコンバッグにうつ伏せに倒れているところを代表者に発見された。その後、救	30209	1～9

		18	急搬送されたものの熱中症に起因する心筋梗塞により死亡した。		
2020	8	14 ～ 16	被災者は、工場内天井配管の解体作業を高所作業車で行っていた際、「熱中症」を発症し、それにより心筋梗塞に至り死亡した。発症時の気温は29.8℃、WBGT値28.8で「厳重警戒」に該当していた。	30203	1～9
2020	8	12 ～ 14	工場内で段ボールケースをパレットへ積み込む作業をしていた時に体調が悪くなり、熱中症の症状であったため、病院へ搬送され治療を受けていたが、同日、容態が急変し心破裂により死亡した。	10602	50～ 99
2020	8	16 ～ 18	新聞配達中に顧客先で倒れて病院へ救急搬送されたが、同日午後に熱中症による低酸素脳症で死亡した。搬送当時は意識があり会話も可能であったが、その後様態が急変した。	80205	30～ 49
2020	8	18 ～ 20	産業廃棄物処理業において、焼却炉3階ステージで炉内補修用の補修材をミキサーで練る作業を行っていた。同僚が水分補給のため休憩所に向かい戻ってきた時には、被災者は泡を吹いて倒れていた。同僚が作業場所を離れたのは3分程度。災害発生日は夏休み（1週間）明け初日で、終日焼却炉を稼働するための準備作業を行っており、焼却炉は稼働していなかった。被災者は、計測機器の更正、清掃作業等軽作業を中心に行っていた。	150102	50～ 99
2020	8	12 ～ 14	被災者は、午前中から、屋外において樹木の剪定により切り落とした枝木の回収等を行っていた。なお、被災者は、屋外作業を開始して2日目であったため、午前中で作業を終了することとなっていた。午前中の作業が終了したため、被災者は、作業場所近くの公園の駐車場に移動し、送迎の自動車を待った。その途中、手足のしびれなどがおこり、体調不良となったため、救急搬送したが、熱中症と思われる症状で死亡が確認されたもの。	170101	30～ 49
2020	8	10 ～ 12	マンション新築工事において、外部足場の盛替えを行うため、組立作業の補助を行っていた被災者が、休憩のため同僚の作業員達とともに、足場の昇降階段を使用して1階に降りていたとき、足場の4層目の踊場で痙攣を発症し倒れていたところを休憩を終え、作業場所に戻る途中の別の会社作業員に見られ、救急搬送されたもの。同日、搬送先の病院で死亡した。	30201	10～ 29

2020	8	8 ～ 10	被災者はコンベアーに設けられたスクリーンの交換作業に従事した際に気分が悪くなり、その場に座り込んだ。様子がおかしいと思った同僚が事務所に車で運んだ。その際は、会話もでき意識も清明であったが、その後、突如様態が悪化し、救急車により病院に搬送されたが、熱中症が原因と思われる心臓突然死の疑いで死亡した。	150102	1～9
2020	8	10 ～ 12	被災者は、事業場から出張先の養鶏場までトラック（最大積載量3250kg）を1人で運転した後、養鶏場内において、トラックからおが屑を降ろす作業を行っていたところ、体調の不良を訴え、休憩を取りながら、養鶏場の代表と共に作業を終えた。その後、出張先の養鶏場から事業場に帰るため、1人でトラックに乗った後、午前11時35分、トラックの中で倒れていたところを養鶏場の代表から発見された。	80209	1～9
2020	8	12 ～ 14	被災者は、午前中よりコンクリート製品運搬・結束・梱包作業のため、炎天下の下でフォークリフトの運転業務に従事していた。昼休憩となり、自家用車内で弁当を食べるため、事業場の駐車場へ向かったが、昼休憩時間を経過しても職場へ戻らなかったため同僚が捜した所、駐車場の端でうつ伏せの状態で倒れている所を発見されたもの。	10901	10～ 29
2020	8	12 ～ 14	下水道工事において交通誘導警備員として労働者3名が配置されていた。午前頃から交通誘導警備を開始。お昼ころ、被災者から労働者Aに無線で体調が悪いと連絡が入り、被災者は現場近くに駐車していた労働者Aの車両にて休憩に入った。労働者Aが被災者の様子を見に行ったところ、返事がなく救急要請。搬送先医療機関にて死亡した。	170201	10～ 29
2020	8	2 ～ 4	被災者は、工場建屋内の設備の清掃作業に従事し、終業後、体調が悪そうに更衣室へ向かっていた。それを見た同僚が被災者を横になって休ませる等した後、事業場から被災者を病院へ搬送したが、翌日に容態が急変し、死亡した。死亡原因は、熱中症による多臓器不全と診断されている。	150101	10～ 29
		14	事業場敷地内にて、同僚1名と動物の原皮をパレットに乗せる作業をしていたところ、作業中に被災者の顔色が悪くなった為、同僚が休憩を指示し、被災者は壁にもたれながら休憩室まで歩いている途中で倒れた。救急搬送され		

2020	8	～ 16	たが病院で死亡が確認され、死因は熱中症と診断されたもの。作業場所は壁の1面だけが外気に開放され、扇風機があるのみで休憩室含め建物内に冷房の設備はない。当日の最高気温は約32度であった。	11709	1～9
2020	9	16 ～ 18	被災者は会社所有の田畑の草刈業務を行っていた。夕方ごろ、被災者の作業が一段落したため、被災者は社用車の荷台に腰掛けて休憩した。一緒に作業していた労働者が地面に倒れている被災者を発見した。被災者は15分程度うめき声をあげていたが、救急車が来る直前にうめき声を発しなくなり、病院に搬送されたものの当日に死亡した。当日の天気は曇で夕方の気温は29.8℃。	60101	1～9
2020	12	2 ～ 4	深夜、道路の除雪作業のため自宅から除雪作業に使用する除雪ドーザー駐車場所に向かう旨を連絡した後、被災者は行方不明になった。同日夕方頃、工場敷地内で倒れている被災者を発見された。被災者は、道路脇に駐車した自家用車から歩除雪ドーザー駐車場所に向かっている途中であった。	30199	1～9
2019	6	12 ～ 14	被災者が工場での業務を終了し、帰宅のため駐車場に向かったが駐車場で倒れ熱中症により死亡したもの。	10109	100 ～ 299
2019	7	12 ～ 14	アスファルト舗装工事現場において、路盤の転圧作業、アスファルト乳剤の散布作業及び表層の敷き均し後のふるいによる目潰し作業を行っていた被災者が体調不良を訴え、作業を中断してトラックの運転席で休んでいたが意識が無くなり、病院に搬送されるも、翌日死亡したもの。（熱中症）	30106	30～ 49
2019	7	14 ～ 16	掘削土砂運搬現場において、堤防上を警備していた交通誘導員がうつ伏せで倒れているのを通行したダンプトラックの運転手が発見して救急車で病院へ搬送されたが、熱中症により死亡したもの。気象条件 天候晴れ 気温32.8度 風速0.5m/s	170201	10～ 29
2019	7	20 ～ 22	ショーの練習のため、園内においてダンス等の練習を行い、夜に練習を終えて300メートルほど離れた控室に戻る途中で、着ぐるみを着ていた被災者が自力で歩けなくなり、仲間に両脇を抱えながら控室に戻り介抱されていた	140302	300 ～

			が、心停止状態となり、その後救急搬送された病院で死亡したもの。		
2019	7	14 ～ 16	荷主先においてトラックの荷台で積み荷作業を行っていた被災者が、救急搬送後、同日 2 2 時 2 8 分に死亡し、直接死因の原因が熱中症とされたもの。	40301	50～ 99
2019	7	10 ～ 12	ゴルフ練習場内の草刈作業後に芝刈機の刈刃の高さを調整していたところ、午前に急に体調を崩したため、屋根がある休憩場所で休憩していた。その後も体調が回復せず、救急車で病院へ搬送、入院していたが、後日死亡した。当日の作業場所の気温は 3 5 度であった。（熱中症）	140301	10～ 29
2019	7	10 ～ 12	造船工場のドックにおいて、船体を高圧洗浄機により洗浄する作業を朝から行った。2 0 分間の休憩を取り、作業を再開したが、被災者が体調不良を訴えたため作業を中断した。熱中症の疑いがあったため救急搬送し、同日夕方に死亡した。	11501	10～ 29
2019	7	16 ～ 18	工場内で、1 日製造作業に従事していた被災者が、終業前の清掃作業時に倒れているところを、同僚に発見された。救急搬送されたが、翌朝、熱中症により死亡が確認された。	10602	100 ～ 299
2019	8	14 ～ 16	被災者が朝から交通規制に伴う交通誘導業務を行っていたところ、意識を失ったもの。なお、被災者が倒れたところを現認した者はいない。昼ごろに通行人が路上で倒れている被災者を発見し、病院に救急搬送されたが、後日熱中症の疑いで死亡した。	170201	10～ 29
2019	8	14 ～ 16	被災者は岸改修工事で交通誘導員として現場の工事用車両の搬出入の誘導を行っていた。夕方頃、被災者の体調の異変を感じた同僚が休憩を指示し、被災者は休憩所に向かったが、2 5 分後、別の同僚が休憩所へ向かう途中にある公衆トイレの前で倒れている被災者を発見した。その後、被災者は救急車で病院に搬送され、死亡が確認された。	170201	100 ～ 299
2019	8	16 ～ 18	災害当日、被災者はボーリング作業に 1 日従事し、当該ボーリング作業終了後の片付け作業中、熱中症を発症したため医療機関へ搬送されたが死亡したもの。	30309	1～9

2019	8	18 ～ 20	工場内において、網入りガラスの四方に出ている網をサンダーで飛ばす作業の完了後、次の作業のため、移動台車に載ったガラスを取り出そうとした時、急に気分が悪くなり、熱中症により倒れたもの。その後、入院加療を続けていたが死亡したもの。	10902	50～ 99
2019	8	16 ～ 18	造成工事において、施工管理の補助業務を担当していた被災者が、業務を終え、帰宅するため最寄り駅へ徒歩で向かった。同日に駅構内のエスカレーターを降りたところで倒れている被災者が駅利用者に発見され、病院に搬送されて熱中症の診断を受け、治療していたが、8日後に死亡したもの。	30109	100 ～ 299
2019	8	10 ～ 12	被災者は工場内で木材チップを大型トラックに積み込み、発電所でショベルローダーを使用し、単独で積み降ろし作業をした。積み下ろし作業を終えた被災者本人から会社に体調がすぐれない旨の連絡あった。同所に荷物を運んでいた別のトラック運転手が様子を確認したところ、意識を失い座席に座ったままの被災者を発見した。	40301	30～ 49
2019	8	10 ～ 12	ビニールハウス組立工事にあたり、被災者は気温31.6℃の環境下で脚立を利用し陸梁を取り付ける作業を行っていたところ、脚立に座り込み、その後ふらついた状態となった。そのため、被災者を病院に搬送したところ入院措置となり、そのまま熱中症とみられる症状により死亡したもの。	30209	1～9
2019	8	10 ～ 12	災害当日、被災者は、熱中症嚴重警戒環境下において、鉄骨の荷下ろし作業及び仮締め作業に従事していたものであるが、嘔吐の症状が出現。休憩を取得し、飲食店に移動したが、同僚が食事中被災者は車内で待機していた。正午頃、車内に被災者がいないことに気づいた同僚が近隣を搜索したところ、意識を失って倒れていた被災者を発見。医療機関に搬送されたが死亡した。	30209	1～9
2019	8	14 ～ 16	改修工事において、玄関スロープ敷設のための段差のはつり作業中、コンクリート片をしゃがんで集めていた被災者の動きが鈍いことに気づき、同僚が声をかけるも、発汗がなく、次第に応答もしなくなった。その後、搬送先の病院にて死亡したもの。	30209	1～9
2019	8	14 ～	配達業務中に路上で倒れているところを発見され、救急搬送されるも翌日に	110101	300 ～

		16	死亡した。		499
2019	8	14 ～ 16	一戸建て住宅の外壁改修工事の足場解体作業を午前中に作業員3人で行い、昼休憩を取った後に解体した足場材をトラックの荷台へ積み込む作業を行っていたところ、午後、被災者の具合が悪くなり、トラック横の日陰で水を飲んで休憩していたが、午後に被災者を確認するも見当たらず、探していると、約50m離れた住宅駐車場でうずくまっている被災者を発見し、病院へ搬送したが、熱中症により死亡したもの。	30209	10～ 29
2019	8	4 ～ 6	被災者は、原付バイクで新聞配達を行っていたが、市道脇にバイクと伴に倒れていたところを、他社の新聞配達員に発見された。搬送先の病院で治療を行ったが、2日後に死亡（死因は熱中症）した。気象台統計によると、被災時の気温30度、湿度63%であり、WBGT値が28度の「厳重警戒」状態であった。被災日は台風接近の影響でフェーン現象が発生し、深夜でも高温状態が続いていた。	80205	10～ 29
2019	8	14 ～ 16	上水道工事現場において、高温・多湿の環境下の中、被災者を含め3名で上水道管の引込み作業を行っていた。午後に作業が終了したので自宅に帰宅した。その後、体調が悪くなったことから、被災者の家族が車で病院に搬送中、容体が急変、病院で治療を受けたが回復せず死亡した。	30309	30～ 49
2019	9	12 ～ 14	被災者は、高速道路上で通信ケーブル張替敷設工事に係る交通誘導規制作業及び警備業務を行っていた。工事終了後、資材車の助手席に乗り、矢印板テーパー等の撤去作業を行った。同僚は、荷台の整理を行うため、路肩に資材車を止め、整理作業を行っていたが、被災者が資材車から降りてこないため、様子を確認したところ、意識を失っていた。病院に搬送され、治療を行っていたが後日死亡した。	170201	10～ 29
2019	9	12 ～ 14	令和元年9月9日午前から、被災者と同僚の2名で、太陽光発電パネル設置工事の予定場所に自生する希少植物を探し、工事予定エリア外に移植する作業を開始したが、正午頃、同僚とはぐれ被災者が行方不明になった。翌日搜索したところ、付近の草むらの中で倒れて死亡しているのが発見された。	170209	50～ 99

2019	9	14 ～ 16	建設現場において、コンクリート打設作業を行っていたところ、被災者が倒れた。その後、救急車で搬送されるも死亡に至る。	30209	30～ 49
2019	10	14 ～ 16	アスベスト回収工事において、被災者は隔離養生前室内にある廃石綿入りの袋を、約40m先の集積コンテナまで手で運んでいた。被災者の体調不良に気付いた同僚が休憩室で休むよう伝えた約10分後、休憩室への途中で倒れている被災者が発見された。死因不明。外傷なし。服装は作業服（午前中はタイベック着用）。有害物、過重労働の可能性低。災害発生日の養生外の気温31.2度（WBGT記録なし）。	30309	1～9
2018	3	4 ～ 5	林道で雪のため車が動けなくなったとの救助要請により、被災者と同僚2名はレスキュー車で現場に向かったが、レスキュー車も雪のため動けなくなった。被災者は救助要請者の車又はレスキュー車を救助に来た除雪車に向けて徒歩で移動していたところ連絡が取れなくなった。警察、消防及び自衛隊で捜索したところ、林道に倒れている被災者を発見したもの。	40301	1～9
2018	6	14 ～ 15	戸建て住宅新築工事において、基礎土台組、床板貼作業をしていた被災者が気分が悪くなり動けなくなったため、病院に搬送したが治療中に死亡した。	30202	1～9
2018	6	12 ～ 13	プレカット材をトラックから、建設現場内の作業員へ手渡しにより搬入作業を行っていたところ、昼の休憩中に具合が悪くなり、熱中症となり後日死亡したもの。（観測所気象データ30.7℃及び32.6℃）	30202	10～ 29
2018	7	16 ～ 17	熱中症。草刈りの補助業務（収集運搬積み込み、フェンスに絡みついた藁などを手作業で除去）を行っていた。夕刻、立ち尽くしたまま動かないため他の作業員が声をかけたところ、卒倒した。ただちに大学病院へ搬送するも後日死亡したもの。	60101	10～ 29
2018	7	14 ～ 15	木造住宅の解体現場で被災者は木くず等をトラック荷台に積み込む作業を行っていた。休憩していたところ気分が悪くなり、そのまま木陰で休憩していたが、体調が回復しないため仕事を切り上げ同僚が運転するトラックに乗って帰社する途中で嘔吐、痙攣したため、救急車で病院へ搬送したが、後	30202	10～ 29

			日搬送先の病院で死亡したもの。		
2018	7	12 ～ 13	個人住宅の2階のベランダ改修工事において、木製のベランダを組立て後に、被災者を含め2名で床部分をFRPによる防水処理する作業に従事していたところ、被災者が熱中症を発症してベランダ上で倒れた。救急隊が現場に到着したが、被災者をベランダ上から地上に降ろすことができないため、救助隊を要請し、倒れてから約1時間経過して病院に搬送された。後日死亡を確認。	30202	1～9
2018	7	8 ～ 9	被災者外5名が個人住宅屋根に既存する瓦の撤去作業を開始し、休憩した。休憩中、被災者本人から現場に入場していた代表者の息子に入電があり、倉庫裏で嘔吐し動けないとの話しであったため駆けつけたところ、被災者が倒れている状況で発見された。消防へ通報し、約10分後に救急搬送されたが、搬送先の病院で同日死亡が確認された。熱中症が疑われる。	30209	1～9
2018	7	16 ～ 17	派遣先の建物3階備品倉庫で崩れ落ちた感じで倒れていたところを発見された。備品倉庫は、人があまり立ち入らず、清掃業務をする場所ではなく、休憩所ではなかったが、休んでいたと思われる。	11502	50～ 99
2018	7	16 ～ 17	構内下請の被災労働者は竹箒を使って倉庫内の清掃を行っている際に、ふらつきが認められたため、速やかにスポットクーラー前に寝かせるとともに、冷却剤や経口補水液等の処置が行われた。被災者は会話や自力での歩行が可能だったことから、病院には行かず、その日の夕刻に帰宅したが、翌日朝に自宅で死亡しているところを発見された。死因は熱中症だった。	50101	1～9
2018	7	16 ～ 17	被災者が新聞配達を行っていたところ、熱中症になり救急車で搬送されたものの。その後、意識不明の状態が約25日続いていたが、死亡が確認されたものの。	80205	10～ 29
2018	7	12 ～ 13	被災者は午前から線路上で行われていた電気設備工事の現場で列車見張り警備の業務に従事。昼の休憩中に作業員集合場所の道路上で寝ていることを不審に思った同僚が声をかけたところ体調不良を訴えたため、応急手当を行ったが回復せず、救急車を要請、病院へ搬送されたが熱中症により死亡した。	170201	100 ～ 299
		14			

2018	7	～ 15	事業場内の庭の草刈り作業を行っていた被災者が倒れていたところを発見されたもの。救急車を要請するも現場で死亡が確認された。	90209	1～9
2018	7	～ 15	被災者は災害発生日の午前中、民家改修工事現場で足場設置前の既設ベランダ取り外し作業等を補助し、午後は事業場で足場用資材をトラックに積み込んだ後、上記現場において足場用資材の荷揚げ作業に従事したが、同作業を終了した後に足場上で動けなくなり、病院に救急搬送されたが熱中症による多臓器不全により死亡した。	30209	1～9
2018	7	～ 17	事業場内において、作業していたところ、倒れているところを発見、救急車搬送されたが、後日に死亡したもの。	11409	1～9
2018	7	～ 15	屋外の配管漏れ修理作業において、新規の配管を溶接で取り付ける作業をしていた被災者は、溶接作業終了後に体調不良を訴え休憩していたところ、急に痙攣を起こし、倒れ、心肺停止状態となったため医療機関に搬送されたが、熱中症により後日死亡した。当日の最高気温は36.5度であった。	30309	1～9
2018	7	～ 15	大学の試験があり、会場周辺の道路での違法駐車防止及び道案内のため警備を行っていた被災者が、駐車場北側で倒れているところを通りがかった人が見つけ、消防に通報し、病院へ搬送されたが、熱中症により死亡と診断されたもの。	170201	10～ 29
2018	7	～ 7	橋梁建設工事において、警備業務に従事していた被災者が、作業現場内のトイレカーの横で俯せに倒れているところを発見、救急車で搬送したが、後日熱中症により死亡した。	170201	50～ 99
2018	7	～ 9	被災者は他1名とともに地盤調査を行っていたが、体調がすぐれない様子であったため、作業を中断し帰宅したところ、帰宅途中に通行人の通報で救急搬送された。入院治療先で死亡。	30309	1～9
2018	7	～ 13	山頂にて安全誘導業務に従事していたが、台風接近に伴い早めに勤務交替をし、2名で下山中、強風により動けなくなり、救助を要請した。救助隊合流時には意識が朦朧としており、救急車で搬送中、心肺停止、翌日、搬送先の	170201	100 ～ 299

			病院で低体温症にて死亡。		
2018	7	10 ～ 11	事業場内での熱中症を原因とする死亡災害。被災日前日から翌日まで1人で金型作業室にいた。その間、同僚と何回か会話をしており、体調が悪い、気分が悪いと被災者が話していたとのこと。トイレに入る被災者を見かけ、10分後トイレで倒れているところを発見。呼吸はあったが意識朦朧としており、呼びかけにも応じなかった。救急搬送されたがその後死亡が確認されたもの。	10805	10～ 29
2018	7	16 ～ 17	事業場の敷地内に停車していたタンクローリー（粉末状のセメントの運搬車）のタンク上部の蓋が空いているいることに不審に思った社長がタンク内部を確認したところ、被災者が倒れているところを発見され、搬送されたが熱中症による死亡が確認された。被災者は当日の朝、夜勤業務終了後に同敷地内に停めていた自家用車の中で寝ていたところを目撃されていたが、その後は姿が確認されていなかった。	40301	1～9
2018	8	10 ～ 11	2日がかりの予定で朝から、毎月次点検受託先の変電設備（キュービクル）の点検作業に従事していたところ、熱中症にり患し倒れたもの。同僚労働者と午後から交代することが予定されており、事前に電話をしたが被災者の応答はなく、作業場内を搜索したところ、キュービクルの前で意識を失って倒れている被災者を見つけた。頭上からの日射に加えて工場用コンプレッサーからの排熱が滞留し、極めて暑い場所となっていた。	170209	1～9
2018	8	12 ～ 13	被災者は、農業用水路の維持管理業務を行っていた。被災当日の午前中、1人で刈払機を使用して用水路の周りの野山の草刈り作業を行っていたが、当日の夜、家族から被災者が自宅に戻っていないとの連絡を受け、搜索を行ったが見つからなかった。翌日の明け方、草むらに仰向けに倒れているところを発見されたが、既に死亡していた。外傷なし。被災当日の被災場所の午前中の気温は23度から26度。	160101	10～ 29
2018	8	22 ～	商業施設主催のイベント会場において、露店での飲食物の販売に伴う接客業務に従事していた被災者が、片付け作業を行っていた際に意識を失ったもの。その後救急車で病院に搬送されたが、同日、死亡（熱中症）が確認され	80209	1～9

		23	たもの。		
2018	8	14 ～ 15	被災者は同僚と２人で荷崩れを起こしたみかんの乾皮入りの袋（１袋の重さ１５ｋｇ、６０個「１２段」）の復旧を工場内で始め、約１５分間作業した。その後、２名は約１５分間の休憩を取り作業を再開したが、その後被災者は「暑い」と同僚に申告して再び現場を離れた。休憩を取るため休憩所を訪れた同僚が、意識なく倒れている被災者を発見した。なお、休憩所は冷房されていた。	40301	50～ 99
2018	8	16 ～ 17	終業時間前の労働者が、事業場内更衣室前の廊下の壁にもたれかかり、朦朧とした状態で発見されたもの。発見時には、かろうじて意識があったが、直後に意識を失い救急搬送され、搬送先の病院で容態が悪化し死亡。	11209	300 ～
2018	8	6 ～ 7	工場エンジン鑄造部に所属する被災者は、シリンダーブロック仕上げ検査工程にて、外段取り作業を担当し、主にライナーセット作業と品質抜取検査を行っていた。休憩所付近でふらついているのを発見され、休憩所で産業医等が対応していたが、回復が見られなかったため、救急車で病院に搬送した。意識不明の状態であったが、後日死亡したもの。	11502	1000 ～ 9999
2018	8	16 ～ 17	解体工事現場で基礎杭抜き作業を行っていた被災者が、救急搬送後、後日死亡。原因が熱中症とされたもの。	30203	1～9
2018	8	12 ～ 13	民家の残置物の撤去作業を朝から行い、昼頃になって被災者の様子がおかしいことに気づき、日陰で休ませたが、回復が見られなかったため、救急車を要請し、病院に搬送されたものの、熱中症により病院で死亡した。	30201	50～ 99
2018	9	18 ～ 19	ピッキング作業の１ラインを請け負っている物流センターの体感温度３０℃以上の倉庫内にて、２時間ごとの休憩で水分補給を行いながら商品仕分け作業をしていたところ、３回目の休憩後に被災者から体調不良の申出がなされ、休憩を延長していたが、動けなくなるとともに過呼吸状態となり、救急搬送され、後日熱中症で死亡したもの。	50101	50～ 99
			被災者はアスファルトを保存していた合材サイロ内において、アスファルト		

2017	5	16 ～ 17	のはつり作業を行っていたところ、サイロ内に付着していたアスファルトの塊がサイロの排出口を塞いでしまい、閉じ込められ、サイロ内の熱により、Ⅲ度熱中症、多臓器不全、血液凝固障害、くも膜下出血となった。被災者は、病院に運ばれ治療を受けていたものの、死亡した。	10804	10～ 29
2017	7	12 ～ 13	午前9時から施設の草刈り等の作業を行っていたが、昼以降体調が悪くなり、早退した。帰宅後、体調不良のところを家族に発見され、病院に搬送された。入院後は体調の回復の兆しをみせていたが、体調が急変し、死亡した。	60101	10～ 29
2017	7	14 ～ 15	現場敷地内にて不要となった電柱2本を抜いて持ち帰る作業を10時から事業主と被災者2名で行っていた。13時45分作業終了後、事業主が電柱を運搬車に乗せ先に現場を出た。その後、被災者が建柱車にて現場を出たところ、当該現場付近公道の溝に建柱車の左後輪を脱輪。被災者は脱輪復旧を試みたが復旧できず、運転席にてぐったりしているところを発見された。病院にて搬送後死亡。熱中症と診断。	30301	1～9
2017	7	16 ～ 17	被災者は午前8時から伐採された木等の運搬作業を屋外で開始。午前9時、午後2時に10分間、午前10時、午後2時半に30分間。午後12時に1時間休憩を行った。午後4時に作業終了後、被災者が倒れているところを発見し、日陰で安静にさせたが、嘔吐と痙攣を起こした。そのため、救急車で病院に搬送されたが、死亡を確認。	30199	1～9
2017	7	16 ～ 17	屋根改修その他工事において、被災者は屋根上で金属製スレートカバーを運搬する作業を行っていたが、当該作業が終了し、地上にて点呼後、行方不明となったため、他の従業員が搜索したところ、屋根上で意識を失った被災者が発見された（熱中症）。	30209	1～9
2017	7	14 ～ 15	被災者は、宅地造成工事現場の警備業務に従事していた。当日の現場作業終了後、工事関係者が現場の片付けを行っていたとき、被災者が体調不良となったため、救急車で病院へ搬送したが、翌日搬送先の病院において、熱中症による多臓器不全により死亡した。	170201	30～ 49
		10	建築現場において、上水管引き込み工事現場における公道の交通誘導を1人		100

2017	7	～ 11	で行っていた警備員が、業務中にふらつき倒れ込んだため、救急搬送されたが、搬送先の病院で死亡が確認された。	170201	～ 299
2017	7	～ 13	事業場所有の野菜畑において、被災者は同僚とともに午前7時から草取り作業を行っていた。午後0時、各自の自家用車で自宅に戻って昼食をとるために一旦解散し、昼食と休憩を済ませて野菜畑に戻ってきた同僚が、畑脇に駐車した被災者の自家用車の運転席に、意識不明の状態で座っているのを発見した。	60101	1～9
2017	7	16 ～ 17	住宅新築工事現場において、擁壁の型枠建込み作業中にけいれんを起こし倒れ、病院へ搬送されて入院中であったが、死亡した。	30201	1～9
2017	7	～ 17	被災者は午前9時からコンクリート打設作業にかかる左官工事を開始。午後4時30分頃、被災者が倒れているところを発見し、救急車で病院に搬送されたが、死亡を確認。熱中症の疑い。	30201	10～ 29
2017	8	10 ～ 11	倉庫作業場において、パレットからフリーローラーに荷物を降ろすピッキング作業に従事していた。午前の作業終了後、休憩に入り休憩後に休憩室から出ようとしたところ、歩行不能となり病院へ救急搬送された。療養中であったが後日死亡した。	110101	300 ～ 499
2017	8	～ 17	法面防護フェンスに絡んだつる草を鎌で刈り取る作業（除草作業）を終日行い、終業後帰宅しようとして事業場敷地内の駐輪場へ移動、駐輪場で意識不明の状態で見倒れているところを発見された。熱中症によるものと思われる。	30199	10～ 29
2017	8	10 ～ 11	市内の家庭ゴミの収集中において、ゴミ収集員である被災者が突然倒れ、熱中症により死亡した。	150103	10～ 29
2017	8	～ 17	道路脇の草刈作業中、午後4時20分頃に被災者がひどく疲れている様子だったので約400m離れた場所に駐車してあるトラックで休憩するよう指示した。被災者は歩いて行ったが、その後行方が分からなくなり、周囲を探したところ近隣の建物の駐車スペースで泡を吹き意識の無い状態で発見された。その後病院に搬送されたが死亡した。熱中症と思われる。	30199	1～9

2017	8	14 ～ 15	平屋建て家屋の解体工事現場で、作業中の被災者が熱中症により倒れ、コンクリート床上に頭部を強打した。保護帽を着用していたが、あご紐が緩かったため、転倒時に外れた。病院に搬送され治療を受けていたが、頸髄損傷により死亡した。	30209	1～9
2016	6	15 ～ 16	被災者は、広葉樹の伐採現場において、他の労働者とともに午前10時から立木の伐倒及び造材作業を行っていた。午後3時頃、同僚が伐倒作業を行っていた被災者に作業終了を告げ、先に集合場所へ戻ったが、なかなか被災者が集合場所に戻らないため、再度、呼びに行ったところ、斜面に倒れている被災者を発見した。医療機関に救急搬送し治療中であったが、死亡した（熱中症疑い）。	60201	10～ 29
2016	6	16 ～ 17	午後から敷地内の草刈り作業を行うこととなり、被災者は午後1時から午後2時30分まで草刈機で草刈り作業を行い、1時間休憩を取った後、同僚と共に敷地内の雑木の切り枝の回収業務等を行い、午後4時に作業が終わった。作業が終わって被災者はベンチで休憩取っていたところ、午後4時30分嘔吐し、発汗が多かったことから熱中症を疑い救急搬送された。搬送後意識を失い、翌々日死亡した。	150103	10～ 29
2016	7	16 ～ 17	被災者は、7時よりビニールハウス内や屋外で、苗の水やり等の作業を行っていた。同僚と被災者の2名は、15時50分頃から始めたビニールハウス内の夜冷庫への苗の移動作業中、しんどそうな被災者を確認した同僚から休んでいるように促されビニールハウス内で休憩をしていたが、同僚が被災者の異変を感じ、救急車で病院に搬送したが、搬送先の病院で死亡した。「熱中症」	60101	10～ 29
2016	7	16 ～ 17	ビルの内部土間等工事施工に雑工として入場していた被災者が、15時頃の作業終了後、1次下請の運転する車にて店社事務所に戻る途中、被災者は交差点での赤信号停車中に自ら降車。その後、16時頃に被災者が路上にて倒れているところを第三者により発見され、救急搬送も、熱中症により同日死亡確認。	30201	10～ 29

2016	8	11 ～ 12	被災者は、基礎型枠の解体作業において、単管等の資材の受け渡し等の作業に従事していたが、体調が悪くなってうずくまり、その後、その場に倒れこんだ。すぐに救急車を手配して病院へ搬送したが、およそ3時間後に死亡が確認された。被災時の状況等から熱中症によるものと推定される。	30209	1～9
2016	8	13 ～ 14	災害発生当日、被災者はマンション新築現場にてコンクリート打設の補助をしていた。昼の休憩後、午前中の作業の続きを始めたが、13時30分頃、突然転倒したので小休止を取らせ様子をみていたが、顔色が悪く、熱中症が疑われたので、救急車で病院へ搬送した。救急隊が到着した時は意識があったが、15時前に意識を失い、死亡した。	30201	10～ 29
2016	8	17 ～ 18	事業場にて商談、展示車両の洗車業務等に従事していた労働者が、17時30分頃、事業場内の清掃作業中に頭痛を訴えた。2階の休憩室で休養し、19時過ぎに帰宅した。翌日の朝、起床してこないことから、家族が様子を見にいったところ、呼吸停止の状態で見えられた。警察で検視したところ、直腸温度が37度と高温状態が確認され、直接死因が熱中症の疑いとされた。	80202	30～ 49
2016	8	15 ～ 16	標高約100メートルの山頂にある無線中継所のアラーム障害の点検復旧を行うため、単独で入山した労働者が、午後0時頃から午後1時30分頃まで点検復旧作業を行った後下山するも連絡が取れなくなり、翌朝山の斜面で倒れているのを発見された。司法解剖等の結果から熱中症と推定される。	170209	30～ 49
2016	8	15 ～ 16	道路わきの案内看板移設工事を行っていた被災者が体調不良を訴えたため日陰で休ませていたものの、その後意識混濁状態になっているところを発見された。すぐに救急車で病院に搬送したが、翌日熱中症により死亡した。	30199	1～9
2016	8	12 ～ 13	延長73.3m、幅約2.5mの町道の舗装工事。当日は、元請6名、下請（被災者含む）3名、警備4名の計13名が入場。被災者は、6時に会社に出社し、同僚が運手する車で現場に到着。朝礼後の8時30分から作業を開始。同僚1名と共にロードカッターを操作し、アスファルトを切削する作業に従事。12時前に作業が終了し、後片付けしていたところ、気分が悪くなり、倒れこんだ。病院に運ばれたが、熱中症が原因で死亡を確認。	30106	1～9
			汚染土壌等の仮置場において、密閉容器に入った汚染土壌等をフレコンバツ		

2016	9	14 ～ 15	クに移し替える作業中、被災者は密閉容器のふたを開ける作業を行っていたところ、暑さによる疲れがみられたため車内で休憩していたが、体調が回復せず意識が朦朧としていたことから病院に搬送された。「熱中症」の疑いにより、死亡した。	30309	10～ 29
2016	9	17 ～ 18	工場事務所屋根の防水工事において、被災者は午前8時から当該工事の補助作業に従事していたが、17時頃作業終了後、同僚と現場近くの宿舎に徒歩で戻り、17時50分頃、宿舎エレベーターを降りたところで意識を失い倒れた。直ちに病院に搬送されたが、翌日に死亡。	30209	1～9
2015	7	16 ～ 17	最高気温35度を超える中、1時間おきに休憩をとり、木造家屋解体工事に従事していたが、午後4時の休憩の際、意識が朦朧としているところを救急搬送され、約3時間後熱中症の疑いで死亡したもの。被災者は、休憩時間の際は、スポーツドリンクとお茶を飲んでいた。	30309	50～ 99
2015	6	13 ～ 14	被災者は、派遣先であるリサイクル会社において、工場建屋の入口付近に設置されている粉碎機械の粉碎プラスチック片が自動でフレコンバッグに投入される場所において、フレコンバッグを入れ替える作業を行っていたところ、突然床に倒れ込んだため、救急搬送された。搬送された病院では、急性心筋梗塞、心室細動、低酸素脳症、熱中症と診断され治療を続けていたが、転医先の病院で平成27年9月7日死亡したもの。	170101	300 ～ 499
2015	7	0 ～ 1	ダム付近に設置されている雨量計の月次点検作業のため、点検員2名で山に登っていたところ、被災者が体調不良を訴えたため、点検作業には参加せず木陰で休憩していた。もう一人の点検員が点検を終え、二人で下山していたところ、被災者が倒れ、苦しんでいたため救急要請をした。救急ヘリで病院に搬送されたが、死亡が確認された。死体検案書の死亡の原因欄、直接死因が「熱中症」と記載あり。	80409	10～ 29
2015	8	14 ～	県道の除草作業を被災者を含む8名（現場代理人1名、草刈機除草作業3名、刈った草のトラックへの積込作業2名（内1名が被災者）、交通誘導員2名）で朝8時頃から開始した。午後2時頃、被災者が体調不良を訴えたため日陰で休息させていたところ、痙攣や嘔吐の熱中症が疑われる症状が認め	30199	30～ 49

		15	られた。その約30分後、再び嘔吐して意識が混濁し、救急車を手配するも到着前に心配停止状態になり搬送先病院で死亡が確認されたもの。		
2015	8	16 ～ 17	建設会社の仮置場の除草作業を請け負い、労働者2名で刈払機を用いて除草作業を行っていた。作業終了間際、被災者は刈払機を作業場所に放置したまま、他の作業員がいた場所にふらふらと近づき、大の字になって地面に横たわった。その後、被災者は意識を失い、救急車で病院へ搬送されたが熱中症による死亡が確認されたもの。	30199	1～9
2015	7	14 ～ 15	下記現場の建物屋上で防水作業を行っていた被災者が、午後2時頃に熱中症による体調不良を訴え、足元がふらつき始めた。そのため、現場近くの病院に搬送しようとしたが、被災者が自宅近くの病院の治療を強く望んだため、自家用車で被災者希望の病院へ搬送することにした。しかし、その途中、容態が急変し、急遽、救急車により搬送、入院による治療を行ったが、平成27年8月6日、熱射病による多臓器不全により死亡した。	30201	1～9
2015	8	17 ～ 18	熱中症による死亡災害。午後5時まで川の土手沿いにおいて、土手の草刈作業の交通誘導作業に従事していたが、当日の作業が終了し、現場仲間に車で被災者が乗ってきたバイクの場所まで送ってもらっていたところ、車内助手席で、運転手にもたれかかるように倒れた。救急車で病院に搬送後、加療中であったが、翌日8月2日午前7時頃死亡したもの。	170201	30～ 49
2015	7	17 ～ 18	被災者は事業場建屋内において、通常業務である産業廃棄物の分別作業を終え、定時に退社したところ、帰宅途中に国道の歩道フェンスにもたれかかるようにして倒れている状態で発見され、救急搬送されたが翌日午前に病院で死亡したもの。（熱中症）	150102	10～ 29
2015	8	14 ～ 15	食品残渣等廃棄物から有機肥料を製造する事業場において、廃棄物の入ったフレコンバックを移動式クレーンにてトラック荷台から荷下ろし作業をしていた被災者が、作業中意識を失って倒れ、事業場内で別の作業をしていた労働者が仰向けで倒れている被災者を発見、救急搬送したが死亡したもの。作業を行っていた場所は廃棄物とおがくず等を混ぜ、発酵させる屋内事業場で	11709	1～9

			あり、高温多湿な環境下での作業であった。		
2015	7	15 ～ 16	発生当日、住宅の新築工事における基礎の型枠の組み立て作業を午前8時から作業を開始し、10時から15分間、12時から1時間、14時から15分間休憩を取り、15時より休憩を行おうとしたところ、気分が悪くなったため事業主の指示で車の中で休憩していた。事業主が17時45分頃車内でぐったりしている被災者を発見し救急車にて搬送したものの死亡が確認された。熱中症と思料される。	30202	1～9
2015	7	15 ～ 16	被災者は当日の就業場所であった工事現場にて交通誘導警備業務に従事していたが、立哨場所から5メートル離れた場所で倒れているところを、他の作業員に発見され救急搬送された。被災者は搬送先の病院において熱中症と診断され、集中治療室にて治療を続けていたが、平成27年8月3日死亡した。	170201	50～ 99
2015	7	14 ～ 15	工場内において精麦・飼料製造の補助作業を行っていたところ、熱中症とみられる意識障害を起こして、7月15日に死亡したもの。当日の作業は7時50分から12時まで工場内において精麦・飼料製造の補助作業を行い、一旦休憩後、13時から工場内で午前中と同じ作業を行っていた。災害発生時の工場内温度は約38度。湿度は不明。	10109	30～ 49
2015	8	10 ～ 11	平成27年8月5日、8時15分から社長と被災者の2名で解体作業を行った。10時頃、被災者に休憩を取るよう指示後、社長はトラックを運転し当該事業場の置き場に行った。10時15分頃、社長が現場に戻ると、被災者は駐車場の境界のフェンスに寄り掛かり、意識が朦朧としていたので、救急車で医療センターに搬送したところ熱中症と診断された。入院中の平成27年9月14日に容体が急変し死亡。	40302	1～9
2015	7	16 ～ 17	自動車販売店の増築工事において、雨水排水用のU字溝を設置していた。休憩を複数回取りつつ作業を行っていた。16時から後片付け作業を行っていたところ、両ひざをついて右肩から転がるように倒れた。意識がもうろうとしていたため、救急車で病院に搬送したが、約12時間後に熱中症で死亡した。	30201	1～9

2015	8	12 ～ 13	配達先近くの路上にて車内での待機中、同僚が納品作業中車両に部品を取りに戻ったところ道路上に倒れており、近所の方に介護を受けていたもの（当人より気分が悪いと申し出があったため、午前11時30頃（4件目の配送中）より車内で休憩させていた）。熱中症と診断される。	40301	10～ 29
2015	8	11 ～ 12	被災者は碎石プラントの原石投入ホッパー横の運転室付近で、プラントの機械運転操作及び原石の状況確認を担当していた。午前11時30分、被災者が座り込み体調不良を訴えたため、休憩室へ連れていき休ませていた。回復しないため病院へ連れて行こうとしていたところ意識が消失した。搬送先病院で死亡が確認された。死因は熱中症に伴う急性循環不全だった。	20202	10～ 29
2015	8	17 ～ 18	個人住宅新築工事現場で8時30分頃から外構工事に従事していた作業員が16時35分頃作業を終え、2t車に乗って会社の資材置場に向け出発した途端に熱中症を発症し、救急搬送先の病院で同日、18時頃死亡した。	30202	1～9
2015	6	0 ～ 1	国立公園での研修中、渓谷を下りる際、40度以上の高温環境下で熱中症が原因とみられる体調不良により死亡した。	140309	30～ 49
2015	8	13 ～ 14	午前8時頃から事業場の資材置場において、被災者は、同僚と一緒に草刈り機で草を刈っていた。午前11時頃に少し具合が悪いということで、エアコンを掛けた社有車で休んでいたが具合がよくなり、同僚と一緒に社有車で事業場に戻りそのまま自宅に帰った。午後5時15分頃に妻が仕事を終え自宅に戻ったところ、被災者がソファの上で心肺停止で横たわっていたのを発見したもの。検死で熱中症による急性循環不全と診断された。	30199	10～ 29
2015	8	13 ～ 14	被災者は、道路災害復旧工事現場において、一人で交通誘導等の警備業務に従事していたところ体調が悪くなり、現場の作業員から休むように促されて日陰で休憩していたものの、更に容体が悪くなったため救急車で病院に救急搬送されたが、同日22時22分に死亡（熱中症による死亡）が確認されたもの。	170201	10～ 29
2015	8	17 ～	被災当日16:30の業務終了の点呼、解散後、車で帰宅途中であるはずの被災者が、路上で倒れているところが発見されたもの。死亡診断書に熱中症	170201	50～

		18	の記載あり。		99
2015	8	11 ～ 12	被災者は電気使用量検針のため、携帯電話の無線基地局等2箇所を午前中に巡回する予定であった。午後になっても帰社しないため、他の職員が捜索を行ったところ、1箇所目の検針場所に至る登山道で倒れているのが発見された。発生状況より、被災者は検針場所である標高357mの山頂まで、徒歩で約1.6km登り、検針を終えて約1km下山したところで倒れたものと考えられる。死因は心不全、肺水腫（熱中症の可能性あり）。	11601	30～ 49
2015	9	14 ～ 15	事務所の新築工事現場において、被災者は外構工事としてコンクリートブロックの仮置き作業を行っていたところ、被災者が急にふらふらし、意味不明な言動を始めたため被災者を日陰で休ませたが、その後呼びかけにも応じなくなったため救急搬送した。被災者は搬送先の病院において熱中症と診断され、集中治療室にて治療を続けていたが、翌日死亡した。	30202	1～9
2015	7	17 ～ 18	被災者は、交通警備に従事後会社に戻り、会社から自転車で帰宅した。その後、居宅アパート敷地内の植栽に制服姿で倒れているところを通行人が発見し、午後6時50分ごろ病院に運ばれたが、午後8時54分死亡したもの（直接死因：虚血性心疾患の疑い、原因：熱中症）。	170201	50～ 99
2015	8	13 ～ 14	被災者は、事業場内のビニールハウスにおいて農作業に従事していたが、体調不良のため13時頃早退、同日の夕刻に個人病院を受診した。その翌日、個人病院から紹介された他の病院を受診し、そのまま入院したが、被災した日から3日後に死亡した。	60101	1～9
2015	8	10 ～ 11	線路の除草作業において、午前7時40分頃から、側道での交通整理業務に従事していたところ、午前10時45分頃、体調不良を訴えた。その後救急車により病院に搬送され、治療を受けていたが、翌日14時28分に熱中症により死亡。	170201	30～ 49
2015	8	16 ～	鉄骨造4階建解体撤去工事（予定工期：7月15日～9月12日、請負金額1,450万円）において、災害発生日当日、元請3名1次下請2名の計5名で、4階フロアの鉄骨溶断・引き倒し等の解体作業を行っていた。被災者	30209	50～

		17	は、現場入場１日目で１次下請班長の元で廃材片付けや清掃を行っていたところ、１６：３０頃、作業中に工事現場で倒れ、搬送された病院で熱中症による死亡が確認された。		99
2015	8	0 ～ 1	平成２７年８月１日午後４時頃、代表者及び被災者他３名の作業員が木造建築住宅現場において基礎部分の型枠解体後の清掃作業をしていたところ、ワゴン車の中で休憩していたはずの被災者がワゴン車の後輪付近で倒れており、痙攣を引き起こしていたため、病院へ救急搬送したが、８月３日２０時１５分、熱中症による多臓器不全にて死亡した。	30202	1～9
2015	7	15 ～ 16	熱中症による死亡災害。午前９時より、国道上り車線において、街路樹の伐採作業の交通誘導作業に従事していたが、午後３時３０分頃に、同僚に不調を訴えたため、現場近くの病院に搬送後、別の病院に救急車で転医したが、翌日８月１日午前２時頃死亡したもの。	170201	50～ 99
2015	8	23 ～ 24	交代のため出勤してきた同僚が、工場内で倒れている被災者を発見。被災者に意識はなく、救急搬送したものの、翌日１９時５分に熱中症を原因とする急性循環不全により死亡。工場では、フッ素樹脂のスクラップを溶融し、押出機にて糸状に成型してから裁断し、出荷用のペレットを製造している。工場は三交代の勤務体制である。被災者は１５時から２４時の時間帯に勤務しているが、１８時から２４時まで毎日被災者一人で作業をしていた	10805	1～9
2014	7	12 ～ 13	住宅の家屋解体工事中、熱中症により死亡した。	30202	10～ 29
2014	7	14 ～ 15	道路建設工事にて、ブロックの敷設作業中、草刈作業を行っていたところ、熱中症により死亡した。	30106	10～ 29
2014	7	18 ～ 19	被災者は、トラックコンテナ内にて、荷の搬出作業を行っていたところ、熱中症により意識障害を起こし、死亡した。	50202	100 ～ 299
		14			

2014	7	～ 15	被災者は、屋外にてプラスチック配水管を並べる等の作業中、熱中症により死亡した。	30201	1～9
2014	7	16 ～ 17	被災者は、建屋周囲の清掃作業中、現場から離れた路上にて、熱中症により倒れていたところを発見された。	30209	1～9
2014	8	11 ～ 12	清掃作業中、トイレ内にて、ズボンを膝まで下げ、壁に倒れ掛かった状態の被災者が同僚に発見された。熱中症により死亡した。	50101	10～ 29
2014	8	13 ～ 14	バルコニー防水工事の作業を行っていたところ、熱中症により倒れ、病院に搬送後、死亡した。	30202	30～ 49
2014	8	14 ～ 15	解体工事の現場にて、内装解体や歩行者誘導等の業務をしていた際、熱中症により死亡した。	30209	1～9
2014	8	16 ～ 17	トラックに積載していた遺留品等の仕分けの作業中、荷卸し作業を行っていた際、意識がなくなり、救急車で病院に搬送されたが、熱中症により死亡した。	170209	1～9
2014	8	16 ～ 17	ゴルフ場の生垣の剪定作業中、剪定した枝及び葉を回収するため、トラックの荷台に積み込んでいたところ、熱中症により死亡した。	60101	1～9
2014	9	11 ～ 12	加熱用電気炉内の電線補修作業中、熱中症により、炉の中扉にもたれかかり、意識の失った状態の被災者が発見された。	11209	1～9
2013	7	17 ～	製鋼工場にて、加熱炉の工程の不具合により、スラブ（鋼片、約900℃）が滞留した。被災者は、溜まったスラブを解消するため、本来自動運転である装入クレーンを手動運転し、スラブ7枚を1時間かけて処理した後、被災者からクレーンを降りる旨の連絡が計器室に入った。しかし、計器室へ戻ら	11001	1000 ～

		18	ないため探したところ、クレーンの電気室に居た被災者を発見した。病院に搬送したが、熱中症により死亡した。		9999
2013	8	17 ～ 18	被災者は、同僚1名と戸建て住宅の風呂の解体作業をしていたところ、吐き気、ふらつくなどの症状が出たため、椅子に座って休憩していたが、椅子からずり落ちたため、同僚が救急車を要請、病院に搬送されたものの、熱中症により死亡した。	30209	1～9
2013	8	17 ～ 18	被災者は、荷揚場改修工事現場で型枠の組み立て作業を行っていたが、体調が悪くなり、同僚が自宅に搬送するも意識がなくなり、病院に搬送されるも熱中症により死亡が確認された。尚、現場は海岸沿いの採石場跡地であり、当日の天候は晴れ、最高気温は33.5度であった。	30111	30～ 49
2013	7	16 ～ 17	被災者は、白ネギ畑で作業を行っていたが、気分が悪くなり、病院に搬送されるも意識がなくなり、熱中症により死亡した。	60101	10～ 29
2013	8	15 ～ 16	河川地震高潮対策地質調査にかかるボーリング作業を、事業者と被災者の2名で行っていた。被災者は、事業者が操作するボーリングマシンのロッドの接続などの補助作業を行っていたが、作業中に倒れ込み、大量に汗をかき、呼びかけにも応じなかったため、すぐに救急搬送したが、熱中症により死亡した。	30199	1～9
2013	7	17 ～ 18	短時間勤務を行う被災者は、屋内で他の労働者3名と温水が溜まっている貯水槽内に入れた和菓子のコンテナを手で洗浄する作業を実施していた際、突然うずくまり、意識不明となった。救急搬送されたものの、熱中症により死亡した。	10104	10～ 29
2013	7	16 ～ 17	船内にて、ダクトの取り付け作業を行っていた被災者は、手足がふるえ歩けない状態となり、冷房のきいた事務所内に運ばれ、水分補給後、休憩した。しばらく経過した後も、手足がふるえ歩けない状態であったため、救急搬送したが、救急車の中で意識不明、心肺停止状態となり、熱中症により死亡した。	11501	1～9

2013	1	20 ～ 21	無線中継所の不具合の疑いがあったため、徒歩で登山道から山頂付近の中継所を目指したが、途中で吹雪のため断念。下山の連絡をした後、徒歩での移動も困難となり、119通報した。その後、捜索していたレスキュー隊によって救出されたが、うち1名が低体温症で死亡した。	80209	10～ 29
2013	6	16 ～ 17	ガス管敷設工事現場の交通誘導員として勤務していた被災者は、体調不良のため駐車した車の中で休憩していた。終業時間になり、同僚が車に戻った際、被災者の意識が無いなど異変を認めたため、救急搬送されたが、熱中症の疑いで死亡した。	170201	30～ 49
2013	8	14 ～ 15	工場の菓子保管倉庫内において、被災者を含め6名の労働者で菓子の袋詰め及びダンボール梱包の作業を行っていた。昼食休憩後に作業を開始した際、被災者が気分が悪いと、熱中症の症状を訴えたことから、同僚が食堂（休憩場所）で休憩するように促し、被災者は作業場を出たが、ほどなく駐車場に停めてあった自家用車の前で倒れているのが発見された。	10104	50～ 99
2013	7	17 ～ 18	仕事を終え帰宅途中、会社の近くで倒れている被災者を通行人が発見、救急搬送されたが、熱中症により死亡した。	11209	30～ 49
2013	5	17 ～ 18	工場内の溶鉱炉付近で、ほうきとちりとりにて溶鉱炉から飛散するすすを掃き集める清掃作業を行っていた。密閉された空間ではないものの、溶鉱炉付近のため周囲よりは温度が高い状況の中、体調が急変し歩行もままならない状態となり、近くにいた者が涼しい場所（エアコンの効いた食堂）へ移動させ、応急処置（氷で冷やすなど）を行い、救急搬送されたが熱傷ショックにより死亡した。	11009	1～9
2013	8	16 ～ 17	被災者は、太陽光発電設備設置工事において、他の下請け事業場を含む作業者6人1組により屋外に設置された太陽光パネルの取り付け状況の確認作業を行っていたところ、体調不良を起こし、救急搬送され治療を受けていたが、熱中症（熱射病）により死亡した。	30302	1～9
2013	12	11 ～	被災者は、焼鈍炉の補修作業を行うために炉内に入った。その後、炉の入口より約18メートルの地点において、台車の上で熱中症により倒れている被災者	11209	300 ～

		12	災者が発見された。		499
2013	7	10 ～ 11	山中にある送電用鉄塔周辺の樹木の伐採を行っていたところ、突然倒れ、呼吸停止の状態となった。すぐに救急措置が講じられたが、搬送先の病院にて熱中症を原因とする死亡が確認された。	60209	10～ 29
2013	7	18 ～ 19	被災者は、前日は風邪で欠勤したが、当日は通常通り出勤し、体調にも特に問題ない様子で作業を行っていた。残業に入り、その時点でも異常は見られなかったが、その後体調不良を訴え（自力で）休憩スペースに移動した。ほどなく上席者が様子を見に行ったところ、倒れている被災者を発見した。尚、死因は熱中症と判断された。	11502	300 ～
2013	8	15 ～ 16	被災者は、携帯基地局の建設現場において基礎コンクリート部分の配筋作業を行っていた。作業を終え地上へ梯子で昇ってきた直後、体調不良を訴え座り込んでしまった。熱中症と思われたため同僚が水と塩分を与え、現場監督が氷を買いに行ったが、現場監督が戻ってきたときには痙攣を起こしており、病院へ搬送されたが死亡した。	30199	1～9
2013	8	13 ～ 14	被災者は、発見直前まで事務所駐車場の草取りを行っていたと思われる（直接の目撃者なし）。その後駐車場の隅で心停止状態で倒れているところを発見され、すぐ救急搬送されたものの死亡した。当日は気温が37度近くあり、更に炎天下のアスファルト舗装された場所で草取りを行ったため熱中症を発症したと推測される。	170101	50～ 99
2013	8	19 ～ 20	被災者は、鶏卵の出荷作業担当で、機械の下に汚れ防止のために敷かれていたビニールをしゃがんで洗っていたが、同僚が前のめりになっている被災者に気付き確認したところ、被災者の意識が無かったため、救急搬送したが、熱中症の疑いで死亡した。	70101	30～ 49
2013	7	19 ～ 20	トラックを運転して走行中、熱中症により意識が朦朧とし、対向車線にはみ出し、対向車線を走行中の対向車に接触した後、空地に停車した。病院に搬送されたが、死亡した。	40301	30～ 49
2013	8	14	墓地のリフォーム作業中（玉砂利部分を石貼りに変更する工事）の、石貼り作業に従事していた被災者が石柵にもたれ込んでいるのを工事担当者が発見	30209	1～9

		15	し、病院へ搬送されたが熱中症により死亡した。		
2013	7	11 ～ 12	被災者は、単独作業にて製紙会社の最終廃棄処分場のため、池に設置された水質計器（pH計）の点検作業に従事していた。その後連絡がとれなくなり、山道から外れた斜面上で、熱中症によりうつぶせに倒れているところを発見された。	80109	30～ 49
2013	8	21 ～ 22	被災者は、集合住宅新築工事現場作業に係る交通誘導を行っていたが、交通誘導業務の途中で現場を離れ、そのまま行方不明になり、後日現場から約300メートル離れたマンション敷地内において遺体で発見された。行政解剖の結果、死因は熱中症と判断された	170201	1～9
2013	7	17 ～ 18	食材の配達業務中の被災者は、配達物の荷下ろしのためトラック内で準備していたところ、気分が悪くなり、トラックの外に出てステップで寄りかかっていたが、通行人に声をかけられた際、道路に倒れこんだ。病院に搬送され、熱中症と診断された。	80209	10～ 29
2013	7	15 ～ 16	被災者は、廃棄物収集のため車両を運転中であったが、助手席にいた同僚が運転操作の異変に気づき、運転を交替し、被災者を助手席に移したところ、容態が悪化したため病院に搬送し、熱中症と診断された。	150102	10～ 29
2013	7	14 ～ 15	被災者は、処理場内において廃棄物の分別作業中、場内を移動して歩いている途中によろめいて座り込んでしまった。すぐに涼しい場所に移動させ水分補給をさせたところ、意識がもうろうとしてきたため救急搬送され、熱中症により死亡した。	11509	10～ 29
2013	8	14 ～ 15	被災者は、閉鎖した食品工場内にあった電線を運びやすい長さに切断する作業を行っていたところ、倒れた。搬送先の病院にて体温を測ったところ、体温計上限の45度を超えており、熱中症にて死亡した。	11301	1～9
2013	8	10 ～ 11	一般家屋の解体工事において、解体工事で発生した廃材の搬出作業を作業員6名で行っていた。休憩を終えたところで、1名の足がふらつくの現場責任者が認め、様子を伺ったうえで現場内の木陰で再度休憩を取らせた。当該作業が終わり、当該作業員を含め3名がトラックにて会社へ向け現場を出	30209	10～ 29

			た。その途中、容体が悪くなり搬送されたが、熱中症による多臓器不全にて死亡した。		
2013	8	16 ～ 17	被災者は、芝畑において手作業での除草作業を行っていたところ、熱中症で倒れているところを発見された。尚、災害発生当日の最高気温は36度、湿度は50～60%、被災者は、Tシャツの上に長袖シャツ、長ズボン、地下足袋及び帽子を着用していた。	30309	10～ 29
2013	7	16 ～ 17	被災者は、木造家屋新築工事現場において、給排水管の敷設工事を行っていた。その後、熱中症と思われる症状により、現場内に倒れているところを発見された。	30202	1～9
2013	8	14 ～ 15	被災者は、生コンを運搬するため、生コン車（4トン）を運転し、工場から工事現場（以下「現場」）に向かった。現場に到着し、生コン車を道路上に停車させ生コンを納品した後、納品により汚れた道路を清掃した。その後、被災者は、熱中症と思われる症状により道路上に倒れた。	80209	10～ 29
2013	7	17 ～ 18	被災者は、椎茸の菌床を2機の高圧殺菌釜に搬入して殺菌後、釜から取り出して放冷室に並べる作業を行っていた。釜の解放により放冷室の室温が急上昇するため、釜を解放後は室温がある程度下がるまで休憩しながら菌床を並べた。被災者は2機の釜を解放して菌床を並べ終えた後に事務所に戻ったが、菌床数を確認のため再度放冷室に行った。その後、放冷室で意識を失って倒れている被災者が発見された。直接死因は、「熱中症」とされた。	10109	1～9
2012	8	21 ～ 22	菓子パン等を製造する燃成室内オーブン出口付近でパンの焼き具合などの監視中に倒れ、救急搬送先の病院で死亡した。	10104	300 ～
2012	8	15 ～ 16	被災者は法面工事に使用したホースの巻き取り作業を行っていた際、同僚労働者が被災者に休憩の合図をしようとしたところ、被災者がふらついていたため、日陰に移動させ座らせた。しかし、意識がもうろうとした状態となり、救急搬送先の病院で熱中症と診断され、死亡した。なお、当日の最高気温は33.8度であった。	30106	1～9
			一般住宅の屋根上に太陽光発電システムを設置する工事のため、足場の組み		

2012	8	11 ～ 12	立て作業を行っていたところ、熱中症で意識不明に陥り、意識回復することなく救急搬送先の病院で死亡した。なお、熱中症を発症した時刻の気温は34.5度、湿度は42%であった。	30203	1～9
2012	7	11 ～ 12	市営住宅外壁改修工事にて使用した足場の解体作業中、体調不良を訴えた被災者に対し、作業主任者は休憩を指示した。午後になり、休憩場所で再度様子を見たところ、症状悪化したと判断されたことから、救急搬送したが、搬送先病院で死亡した。司法解剖により、死因は多臓器不全（熱中症）とされた。	30201	1～9
2012	7	16 ～ 17	被災者は厨房内で作業中にしゃがみこむ等、体調不良であったため事務所内で休憩していたが、休憩中に意識を失い、救急搬送された病院で死亡した。なお、災害発生日の最高気温は34.7度であった（気象庁発表）。	140201	10～ 29
2012	9	11 ～ 12	被災当日、被災者は解体された足場材を運ぶ作業を行っていた。被災者の体調が悪そうであったため、職長から昼休憩を早く取るように指示があり、被災者は単独で徒歩にて休憩所まで移動していたが、休憩所前でふらふらとよろめき、熱中症の疑いがあるとして病院に救急搬送されたが、搬送先の病院にて死亡した。	30106	50～ 99
2012	7	16 ～ 17	被災者は法面吹付け作業前のアンカー打設における試験掘り作業において、削孔機を操作して作業していたところ、飛散防止シートに自ら座り込んだ。他の作業員が熱中症の疑いがあると判断し、日陰に移動させ冷却剤で体を冷やし、スポーツドリンクを飲ませて様子を見たが、体調の回復が見られなかった。その後、救急車で病院へ搬送されたが、死亡が確認された。	30106	1～9
2012	7	12 ～ 13	道路の地下に設置してあるマンホール内の電線移動状況等の点検作業において、被災者はマンホール外での道路上作業を実施後、食事のため自動車を約50m運転したところ脱輪した。同乗者が異変に気付き、被災者を涼しい場所へ移動し、着衣を緩め、少量の水分を摂らせて濡れタオルで頭部と胸部を冷やし、救急車を手配し病院に搬送したが、熱中症と認められる原因で死亡した。なお、災害発生日の気温は36度、湿度は38%であった。	30301	1～9

2012	7	15 ～ 16	被災者は単独で高圧洗浄機を用いた外壁の洗浄作業を行っていたところ、近くの公園でふらふらと倒れそうになっているのを近所の住民により発見され、救急搬送されたが、熱中症により死亡した。なお、発見時に被災者は、作業着にビニール合羽を着用していた。	30202	1～9
2012	8	16 ～ 17	工場内で所定終業時間の直前に行われる清掃中に、被災者が倒れているのを他工程の作業員が発見して声を掛けたところ、意識がない状態であったため救急車を要請したが、搬送先の病院で死亡が確認された。	11502	50～ 99
2012	7	12 ～ 13	被災者は交通誘導を委託された舗装補修工事の路肩部で倒れ、救急搬送先の病院で死亡が確認された。	170201	50～ 99
2012	7	21 ～ 22	被災者は、被災前日から当事業場に派遣されていたが、被災当日、帰宅時に会社駐輪場でバイクの下敷きになって倒れているところを発見された。	11209	50～ 99
2012	7	14 ～ 15	道路工事現場で警備業務に従事していた被災者が、近くの公園で休憩中に鼻血を出し嘔吐している状態で発見された。救急車で病院へ搬送されたが、熱中症により死亡した。	170201	100 ～ 299
2012	8	10 ～ 11	災害発生日、被災者を含む複数の作業員で現場の下刈り作業を開始した。午前中、各自が付近にあった木の陰で休憩をとり、その後、作業を再開しようとしたが、被災者が立ち上がらず、近くで休んでいた作業員が声をかけたところ、応答がなく意識がなかった。直ちに被災者を救急搬送したが、搬送先の病院で死亡した。	60209	10～ 29
2012	7	10 ～ 11	被災者は午前中ブロック積み工事現場で具合が悪くなり、午後に帰宅したが途中で意識を失い、救急搬送先の病院で死亡した。	30199	1～9
2012	7	14 ～ 15	被災者は工事現場で土間の配筋作業中、「暑い、暑い」と声を上げ飲み物の自動販売機に向かって歩いていたら、突然倒れた。	30201	1～9

2012	7	18 ～ 19	被災者は木造家屋建築工事現場で、家屋の基礎の型枠材の加工・組立て作業に従事していた。被災者が休憩中にふらついていたため、現場内で休ませていたが、その後、被災者の呂律が回らなくなり、痙攣し始めたため、救急搬送したが、翌日死亡した。	30202	1～9
2012	8	10 ～ 11	被災者は植林現場において刈払機を使用し、地ごしらえ（笹刈り）作業に従事していたところ、熱中症を発症。刈払機にもたれかかるように倒れていたところを同僚により発見され、救急搬送されたが死亡した。	60201	1～9
2011	6	13 ～ 14	被災者は山中にて刈払機を用いて二年生の杉、雑草の下刈り作業を行っていた。作業当日は快晴で、作業範囲に樹木はなく、無風で直射日光を浴びながら作業を行っていた。30分毎に休憩をとりながら作業を行い、約5時間50分作業を行った。作業終了後、労働者全員が集合した際に、被災者は座り込み、意識を失い、病院へ搬送された。災害発生3日後に死亡した。	60209	1～9
2011	8	15 ～ 16	被災者は、建設工事現場の出入口における交通車両（ダンプ等）誘導作業に従事していたが、15時30分頃、同僚ににふらついているところを発見され、その後に搬送先の病院にて死亡した。	170201	50～ 99
2011	7	17 ～ 18	被災者は、当該事業場倉庫において、倉庫作業（資材の整理、掃除）を終え、ふらつきながら退社しようとする被災者の姿を見た事務員が被災者に声をかけると様子がおかしいことから、救急車を要請し、病院に搬送された。その後、死亡が確認されたもの。死亡原因は熱中症と診断された。	80109	30～ 49
2011	7	11 ～ 12	被災者は当該事業場の工場内において、建設資材の表面に加工されたシール材の剥離作業を開始した。被災者の様子がおかしくなり、心配した同僚が声をかけ、被災者を休憩室に連れて行って介抱していたところ痙攣が発症したため救急車を要請し、病院に搬送され、病院で死亡したものの。	80209	10～ 29
2011	6	11 ～ 12	竹林の整備作業に従事していた被災者は、気分が悪くなり現場で休息をとっていた。被災者の症状に改善がみられないため、病院に搬送したがその途中で意識不明となった。その後、熱中症と診断された被災者は、亡くなるまで意識が回復することはなかった。	60209	30～ 49
			被災者は、ビル改修工事で電気工として勤務していた。午前中の作業終了		

2011	8	12 ～ 13	後、工事現場付近に駐車していた社用車内で昼寝をしていたが、昼休憩終了後も部下の呼びかけに応じなかったので確認したところ、心肺停止の状態であった。その救急車で病院に搬送されたが、午後4時頃に死亡が確認されたものである。（元請の所轄である堺署により、業務上の認定がなされたもの。）	30301	10～ 29
2011	8	17 ～ 18	被災者は、工場内において、同僚労働者とともに生産設備の電気制御盤の改造作業に従事していた。改造作業が完了したため、片付け作業が行われていたところ、被災者が倒れているのを別の労働者が発見し、救急要請が行われた。病院に到着後、処置が開始されたが、22時20分に熱中症により死亡が確認されたもの。	30302	1～9
2011	6	15 ～ 16	被災者は、浄水場内で除草作業に従事していたが、午後3時25分頃、不調を訴えたため、午後5時の終業まで休憩していた。終業後、他の労働者と共に帰社したが、帰社後、被災者は応答しない状況となり、午後7時40分頃、病院へ搬送された。搬送時、被災者は、既に心肺停止状態であり、午後8時40分に肺塞栓症の疑いにより死亡した。	30199	1～9
2011	8	14 ～ 15	被災者は午後2時40分頃、外壁のブロック積み作業中に意識が朦朧となり、その場に倒れ、救急車で搬送された。翌日の8月13日午前2時30分に死亡した。	30202	1～9
2011	6	17 ～ 18	平成23年6月25日（土）午後4時30分頃、A邸解体工事現場において、解体作業に当たっていた作業員が熱疲労の症状を発症、建屋内で休憩をさせていたところ、手バラシしで解体していた職長が、大きなイビキ、大声の発生に気付いたため、急ぎ救急搬送するも熱射病により死亡した。	30209	1～9
2011	7	8 ～ 9	ビニールハウス内で7時30分すぎからトマトの収穫後の枝類を束ねたものを一輪車で運び出す作業を開始し、8時45分頃に被災者の様子がおかしくフラフラしている状態であり、ビニールハウスの柱にしがみついて動けなくなったため、日陰まで担いで移動させたところ嘔吐した。すぐに救急搬送したが、死亡した。	60101	10～ 29
			料亭新築工事に際し、境界壁の掘方をしているとき、被災者の気分が悪く		

2011	7	9 ～ 10	なったため、被災者に休憩を取らせていたが、状態が悪くなったため、11時頃、同事業場所属の者が被災者を病院へ連れていった。病院では熱中症と診断され、医療処置の結果被災者は一時回復したが、1時間後被災者の容態が急変し死亡したものの。	30202	1～9
2011	7	15 ～ 16	市内の茶畑で農薬散布の作業中、午後3時30分頃、被災者が水分補給するため水筒が置いてあるダンプトラックに向かった。少しして事業主がダンプトラックの方を見たところ、被災者がダンプトラックにもたれぐったりしていた。事業主がすぐ近づく意識はあったが5分ほどするといびきをかいて寝てしまったため119番通報し病院に搬送されたが、午後7時23分死亡した。	60101	1～9
2011	8	11 ～ 12	市道の舗装補修工事現場で交通誘導を行っていた被災者が、昼休みをとるために休憩場所へ向かっていたところ、体調が急激に悪くなり、意識不明となって救急車で病院へ搬送されたがまもなく死亡したもの。なお、現場の作業開始時間は朝9時からであり、被災者は10時頃に15分程度の休憩もとっていた。	170201	50～ 99
2011	8	10 ～ 11	S造平屋建ての工場増築工事において、朝9時から1階コンクリート土間打設作業を行っていたところ、バイブレーターを使用してコンクリートのならしを行っていた被災者が10時半頃に体調が悪そうのため、職長が休憩を指示した。しかし、その後も体調が回復しないため、病院に搬送して治療を行ったが、21時07分に死亡したもの。	30201	100 ～ 299
2011	9	11 ～ 12	保育園の運動会を市立小学校で行っていたところ、保育士（22歳）が気分が悪くなり、午前11時40分頃、救急車を要請し病院へ搬送される。午後2時10分頃、収容先の病院で熱中症により死亡した。	130201	10～ 29
2011	6	17 ～ 18	屋外で不燃物から資源ごみを拾い上げる作業をしていた被災者が、終業直後、事業場の休憩室で体がふらつき、体調が悪い様子であったため、他の従業員が被災者を車で被災者の自宅まで送り届けたところ、被災者が自宅玄関で倒れてしまったため、救急車で病院に搬送され医師の診断を受けたところ、熱中症と診断され入院した。被災者の容体は当初、小康状態であった	150103	10～ 29

			が、容体が急変し翌日の午前0時30分に死亡が確認されたもの		
2011	8	13 ～ 14	残土処理場において、軽自動車の車内で休憩中であつた被災者が、口から泡を吹いて意識不明の状態で発見されたが、その後死亡が確認されたもの。	170201	10～ 29
2011	11	16 ～ 17	地上約40メートルの高さでの送電線の相間スペーサ（送電線のブレ止めのため送電線同士を固定する棒状のもの。）取付作業において、相間スペーサの取り付けが終わり地上に降りるため送電線から鉄塔に移る段階になって、被災者の異変に同僚が気づき、同僚が被災者をロープで地上へ降ろしたが既に意識がなく、救急車で病院へ搬送されるも低体温症による死亡が確認された。	30301	30～ 49
2010	9	10 ～ 11	被災者は、民家の家庭用火災報知器の設置のための電気配線工事において、電気配線の作業を1人で行っていたが、事業場から被災者に電話連絡が取れないため、事業場の担当者が当該民家に赴き、被災者の所在を確認していたところ、2階の天井裏（暑熱環境）で倒れている被災者を発見したものの、既に死亡していた。なお、死因は熱中症と推定されたもの。	30301	1～9
2010	8	14 ～ 15	請負事業場先の工場内で、朝から、溶接ロボットを使用した溶接作業に従事していた。午後（気温35℃）になると喉の違和感と熱さを同僚作業者に訴え、作業途中に帰宅した。工場から400mほど離れたコンビニエンスストア駐車場付近で倒れているところを通行人に発見され、病院に救急搬送されたが、翌日、熱中症により死亡した。	11502	30～ 49
2010	8	13 ～ 14	高速道路サービスエリア内の商業施設改築工事現場内において、昼過ぎ、被災者が、休憩所から作業場所まで工具を持って移動していたところ、熱中症により現場通路の途中で倒れ、それを他の作業員が発見し、救急車により病院へ搬送したが死亡が確認された。	30201	1～9
2010	8	12 ～ 13	午前中から断続的にゴルフ場の受水槽内の清掃作業を行い、昼休憩時に冷房の効いた自動車で休憩していたところ、心肺停止状態となり、救急搬送先の医療機関で熱中症により死亡した。	30110	1～9

2010	8	15 ～ 16	個人宅の樹木剪定作業において、同僚が剪定した枝葉を収集しトラックに積み込む作業を朝より開始し、午後になって倒れたために救急車で病院に搬送したが、熱中症により死亡した。被災者は雇われて初日の作業であった。	60101	1～9
2010	8	11 ～ 12	道路修繕工事で、炎天下で一輪車でコンクリートを運搬していた被災者が昼前に行方不明となり、付近を捜索していたところ、現場から離れた民有地の物置の陰にあおむけに倒れている被災者を発見し、救急搬送されたが熱中症により死亡したもの。	30106	1～9
2010	8	11 ～ 12	木造家屋建築工事に付随する水道工事のため、朝から作業を開始し30分ぐらい作業をしたのち一旦休憩をとり、その後1時間ぐらい作業をしたところで体調が悪くなった。自宅に戻り休憩していたが回復しないため病院で治療を受けたものの、熱中症と思われる症状で死亡した。	30309	1～9
2010	8	16 ～ 17	朝から同僚と2名で金属製品の研磨作業（ばり取り）に従事していた。夕刻になり、被災者が足元がおぼつかず歩けない状態であったため、同僚に促され作業場で横になり休んでいたところ、10分ほどして口からアワを吹き、同僚の呼びかけに返事もなく意識がないため、救急要請した。直ちに病院に搬送されたが翌日に熱中症により死亡したもの。休憩は昼休みと午前・午後の各1回で水分摂取が不足していたとみられる。	11301	1～9
2010	8	1 ～ 2	射出成型機の近くにうずまるように倒れている被災者を同僚が発見した。心臓マッサージを行い救急搬送したが、死亡が確認された。作業環境及び災害発生状況から熱中症とみられる。	11502	100 ～ 299
2010	8	16 ～ 17	被災者は河川の土手の除草作業中、熊手を持って草を集めていたところ、30℃を超える炎天下の連続作業により突然倒れ、病院へ搬送されたが意識が戻らず、2日後に死亡が確認された。また、被災者は当日5.5リットルの容器に入った茶を用意しており、その容器はほぼ空となっていた。なお、本件災害発生場所は、除草作業のみが行われ、建設作業はない。	60101	1～9
2010	8	15 ～	精製した原油の輸送を行うパイプラインの防食修繕工事において、取り外した防食テープが詰められた土嚢袋（重さ約5kg）を運搬する作業を行っていたところ、現場で倒れているのが発見され、病院に搬送されたものの熱中	30309	10～ 29

		16	症により死亡したもの。		
2010	8	15 ～ 16	災害発生当日は、被災者を含む4名で、9階スラブコンクリート打設作業を行っていた。打設作業が終了したため、4名が地上へ移動する際、被災者を除く3名は内部階段で移動した。被災者が戻ってこないで、代表者が携帯電話で被災者を呼び出すが応答がなかった。その着信音に気づいた別会社の作業員が、外部足場の2層目仮設階段部に上向けて倒れている被災者を発見した。熱中症とみられる。	30201	1～9
2010	8	12 ～ 13	給水管の更新工事中、溝の中にいる労働者に道具の受け渡しをしていた被災者が、意識はあるが足取りがおぼつかない状態になっているのを同僚が発見し、病院へ搬送したが熱中症により死亡した。照りつける中、日陰や風がない場所だった。	30110	10～ 29
2010	8	19 ～ 20	木製品製造工場において、当日の作業終了後、被災者は作業場の清掃を行っていたが、その後、意識を失って倒れているところを発見された。搬送先の病院で死亡が確認された。高温多湿な作業環境下での業務により、熱中症を発症したもの。	10402	100 ～ 299
2010	8	12 ～ 13	自動車整備工場塗装作業前処理のマスキング作業中、熱中症を発症して意識が朦朧とし、立ち上がれなくなったもの。救急車で病院に搬送され、入院加療中であつたが、約20日後に死亡したもの。	11701	10～ 29
2010	8	20 ～ 21	工場内で倒れていた被災者を見出し、救急搬送したが熱中症により死亡した。被災者の当日の所定労働時間に加えて2時間30分の残業をしていた。	10402	50～ 99
2010	8	19 ～ 20	被災者は、早朝からトウモロコシ畑で害虫の防除作業中、夜になっても作業場へ戻ってこないため、不審に思った社長が畑へ掛け付けたところ、畑の中で倒れていたのを発見した。	60101	1～9
2010	8	11 ～	被災者は、木造2階建て民家のリフォーム工事のため、天井の張り替え工事を1人で行っていた。午後になり左官作業員が現場に戻ってきたところ作業が進んでいる様子がなかったため、被災者が作業をしていた屋根裏を覗いた	30202	1～9

		12	ところ、動きも応答もなかったため救急車を呼んだが死亡した。外気温は約 3 3℃であり、作業場所の屋根裏はそれ以上の気温であったため、熱中症に なったとみられる。		
2010	8	16 ～ 17	森林で刈り払い機を使用して下草刈りを行っていた作業者が作業終了後、片 付けをしているときに倒れているところを同僚が発見した。病院に搬送され 熱中症と診断され入院したが、翌日早朝死亡した。当日の最高気温は3 2. 4℃。被災者は雇用されて2日目であった。	60209	30～ 49
2010	8	12 ～ 13	被災者は1人でセルフスタンドの敷地内の屋外で、朝からミキサー車のホッ パー部をアーク溶接により補修作業を行っていた。昼休み後、当該敷地に隣 接する会社の従業員がミキサー車のホッパー部で上半身を伏せている被災者 を発見した。救急車を呼び病院に搬送したが熱中症により死亡した。	40301	10～ 29
2010	7	16 ～ 17	故障したトラックの出張修理依頼を受け現場に向かったが、その場での修理 が困難であったことから、当該事業場の整備工場に持ち込み、キャブを前に 倒しエンジンの上に跨った状態で故障箇所であるターボブラケットを溶接 (アーク溶接)した。夕刻になり、作業を終え事務所に戻り自分の席に座っ たところ、急に呼吸を乱し机にもたれ掛かる様に意識を失った。病院に搬送 されたが熱中症を発症し死亡した。	80202	10～ 29
2010	7	5 ～ 6	オートクレーブ(第1種圧力容器、1 0 0℃)でセメント成型板の養生が終 了し、オートクレーブから成型板を載せた台車(重量約8 t)を出し、外部 トラバーサーに台車ごと載せるために、接続するためのレールを自動連結さ せていたが、レールが台車に引っかかるトラブルが発生したため、被災者他 1名の労働者は、オートクレーブ内の台車1 4台を鉄パイプで1台ずつこじ りながら入口側に移動させ、台車移動させたところ、被災者はオートクレー ブ内部で熱射病のため倒れた。	10909	50～ 99
2010	7	16 ～ 17	橋脚の沓座修繕作業において、午後の休憩時に、2 5 k g／袋の材料を運ん だ時にふらついていた被災者を、架道橋内にコンパネを敷き休ませていた。 約1 5分後、被災者が国道の方へ歩いて行ったのに気付いた職長が追いか けて行ったところ、被災者が国道に倒れているのを発見し、救急車で搬送した	30199	1～9

			が、熱中症により死亡した。		
2010	7	14 ～ 15	災害発生場所構内のごみ回収作業に従事していたところ、建物に囲まれた中庭に倒れている被災者が発見されたもの。発見時にはけいれんを起こし、意識がなかったので、救急車を要請。病院に搬送するも熱中症により死亡したものの。	170209	100 ～ 299
2010	7	5 ～ 6	朝新聞を配達中に民家敷地内に倒れているところを発見され、病院に搬送されたが熱中症により死亡した。	80205	10～ 29
2010	7	18 ～ 19	個人宅の築庭作業において、屋外で門から玄関に至るアプローチに張り詰め る石や苔などの資材運搬、石張りや苔張りの作業補助を行っていた被災者 が、作業終了前の資材の片付け作業中に熱中症を発症して入院し、翌朝に入 院先の病院で熱けいれんを起こして死亡したもの。当日の天気は晴れで、最 高気温は32.3℃、湿度65%であった。	60101	10～ 29
2010	7	16 ～ 17	被災者は小学校の体育館耐震改修工事において、朝から前日に解体したコン クリート等の廃棄物を体育館内で土のう袋に入れ、それを屋外のトラックに 運ぶ作業を一日を通じて行った。夕方に仕事を終了し、道具等片付け後、元 請会社のトラックにて元請会社まで移動中、助手席に座っていた被災者が ぐったりし、反応が無くなったため、病院に搬送したが熱中症により死亡し た。なお、被災者はこの日が入場初日であった。事故当時の午後の気温は3 5℃を超えていた。	30309	10～ 29
2010	7	14 ～ 15	被災者は養鶏場で採卵作業に従事し、昼休みに作業場から約1km離れた休 憩所で食事をとったあと、自転車に戻る途中の道路上で突然倒れ、死亡した もの。熱中症と推定される。	70101	10～ 29
2010	7	15 ～ 16	被災者は、午後からゴルフコースのティーマークの位置替え、グリーンの カップの切り替え等の作業を順番に行っていた。作業開始から約1時間半 後、グリーン上で倒れているところを同僚に発見された。病院に搬送された が死亡が確認された。熱中症とみられる。	140301	100 ～ 299
			会社の構内において、同会社発注の屋内消火栓ポンプモーターの工事現場で		

2010	7	10 ～ 11	同工事を行わせるに際し、塩を備えず、高温による労働者の健康を防止する措置を講じなかったものである。その結果、労働者1名が熱中症を発症し、1週間後に死亡した。地方気象台観測データは、気温31.2℃、湿度65%。	30309	1～9
2010	7	18 ～ 19	被災者は、朝から夕方まで炎天下の中、屋外の資材置き場において、解体現場から持ち帰った廃材の分別作業及び片付け作業に従事していた。当日の作業が終了し、事務所へ社有車で戻る途中、体調に異変が生じ病院へ運ばれたが同日、熱中症により死亡した。	170209	10～ 29
2010	7	17 ～ 18	自動車道の舗装補修工事現場の工事車線規制箇所の先端部にて、炎天下の中、単独で保安警備作業をしていた労働者が、作業場から1km離れた車線規制箇所内で倒れているところを一般通行車に発見された。病院に搬送されたが、熱中症と診断され7時間後に死亡したものの。	170201	30～ 49
2010	7	16 ～ 17	廃棄物のリサイクルセンター屋内作業場において、ベルトコンベアー上を流れる廃棄物の選別作業を行っていた。終業時間前に作業を終了させ、保護帽を掛ける場所で倒れた。病院に搬送されるも同日熱中症により死亡した。当日16時の気温は35.4℃（気象庁HP）。	150102	10～ 29
2010	7	15 ～ 16	サボテンを栽培するビニールハウス内で、被災者が倒れているのを同僚により発見され、搬送先の病院で熱中症により死亡したものの。被災者は当日の午前より農薬の散布作業を行っていたが、農薬から身を守るため、防毒マスクやポリエステル製の作業着を着用していた。同日の最高気温は35.4℃を記録していた。なお、被災者は入社3日目であった。	60101	30～ 49
2010	7	14 ～ 15	増築工事現場において、外壁用のセメントボードに穴を開け、金具を取り付ける作業を屋外（気温約33℃）で行っていた被災者が、体調が悪い旨を職長に申し出て、現場から約70m離れた散水用の蛇口付近で休憩を取ろうと座ったところ、そのまま仰向けに倒れ意識を失った。搬送先の病院において治療を受けていたが、翌日熱中症により死亡した。	30201	1～9
		17	ガス管理設工事において、一般車両の交通誘導を行っていた警備員が、業務終了時刻になっても同僚との待ち合わせ場所に戻ってこなかったため探した		10～

2010	7	～ 18	ところ、工事用機械置場前の路上に倒れていた。病院に搬送されたが死亡した。熱中症と思われる。	170201	29
2010	7	～ 16 ～ 17	被災者は、配達後に注文書をリーダーに渡そうと指定のコンビニに向かってトラックを運転中、エアコンの調子が悪く、梅雨明けの高温高湿であったため、車内の温度が上昇して気分が悪くなった。体調を回復させようと近くのコンビニ駐車場にトラックを停めて車両から降りようとした際、崩れ落ち意識を失った。病院に搬送されるも翌日に熱中症により死亡したもの。	80101	50～ 99
2010	7	～ 15 ～ 16	メッキ用コンベアにて流れてくるメッキ加工治具を片付け作業中、崩れるように転倒した。同僚が駆けつけたところ、呼びかけには応じたが起き上がれず、次第に意識が低下した、救急搬送された時点で心肺停止し、深夜に熱中症によって死亡したもの。	11204	10～ 29
2010	7	～ 14 ～ 15	緑地整備ほか工事現場において、伐採後の枝や丸太の片付け作業中に倒れ、病院に運ばれたが、翌日熱射病により死亡した。	30199	10～ 29
2010	7	～ 10 ～ 11	被災者は、配送先事業場のトラックヤードにおいて手降ろしで荷降ろし作業を行っていたが、荷降ろし作業終了後、被災者が他社の車両に乗り込んだ。その車両の運転手が被災者を確認したところ意識がない状態であったため、配送先事業場従業員を通じて救急通報を行った。被災者は病院に救急搬送されるも、熱中症により死亡が確認された。	40301	10～ 29
2010	7	～ 17 ～ 18	道路拡幅工事において、コンクリート擁壁の型枠組立及び解体作業中に熱中症となり、搬送先の病院で3日後に死亡したもの。	30199	1～9
2010	7	～ 16 ～ 17	保育園に勤務する被災者が、保育園に隣接する寺の墓地において、1人で手入れ（除草等）作業を行っていたところ、熱中症により死亡した。被災者が倒れているところを第三者が発見し、救急搬送されたが病院で死亡が確認されたもの。	130201	10～ 29
		13	被災者は1人でビニールハウス内（推定45℃以上）の片付け作業を行って		

2010	7	～ 14	いたところ、作業終了予定時刻から約 1 時間半後に、内部で倒れていたのを発見されたもの。	60101	1～9
2010	7	～ 13	被災者は工場 2 階の作業場において、1 階に設置されている連続洗濯機に洗濯物を自動投入する計量機に、洗濯物を載せる作業を 1 人で行っていた。昼になり、被災者の作業の様子を見に行った上司の係長が、計量機の横で仰向けに倒れている被災者を発見した。病院に搬送され手当てを受けていたが、2 日後に熱中症により死亡した。	11703	50～ 99
2010	7	～ 16	被災者は、気分が悪くなったと言い、災害発生場所近くの事務所 2 階居室で休憩した。翌日の朝、同僚が事務所 2 階居室を確認したところ、被災者がうつぶせで死んでいるのを発見した。体が暑熱な環境に慣れていない状況で、梅雨時の日が差す高温多湿な環境で作業を行い熱中症になったもの。なお、死亡推定時刻は午後 3 時頃である。	30309	10～ 29
2010	7	16 ～ 17	ビルの屋上において、塔屋周りに足場を組み立てする作業中、午後の休憩時にふらふらして水分を取ることもできない状態となり、被災者のために用意した飲み物を首の回りなどにかけて少し休ませたが、約 1 時間後にけいれんしていたため、病院へ搬送した。翌日、搬送先にて熱中症により死亡した。	30201	1～9
2010	6	～ 20	事故当日の午後、約 8 %の苛性ソーダを含有する 7 0℃の水溶液が入っている脱脂槽に、油脂除去の目的で船舶用配管を浸漬する作業終了後、被災労働者が当該水槽に保温用シートカバーを被せる作業を、天井クレーンを使用して単独で行っていたところ、当該水槽に誤って転落し死亡した。被災労働者は、入院加療中であつたが、1 カ月半後に急死した。脱脂槽の周囲に転落防止用の手すり等がなく、被災者は玉掛・クレーンの資格を持っていなかった。	11209	10～ 29
2010	6	16 ～ 17	事業場建屋内（屋根はあるが障壁はない場所）で被災者はコンクリート型枠の組立や掃除の作業をしていた。作業が一段落し、休憩所で 5 分程度の休憩ののち、作業場に戻らず門の外に向かって歩いていき、突然道路上で倒れたもの。被災者は病院に搬送されたが翌日熱中症により死亡した。	10901	10～ 29
			被災者は通常通り朝から就業していたが、夕方近くに作業位置を離れてふら		

2010	6	16 ～ 17	ついているところを事業所長が発見し、休憩所で休ませた。その後、被災者の容体が回復したため、駐車場で家族の迎えを待っていたが、被災者の容体が急変して死亡した。熱中症によるとみられる。	150103	30～ 49
2009	8	16 ～ 17	個人住宅建設現場で足場の解体作業中、同僚に「気分が悪いから休憩する」と言って座って休憩していたところ、しばらくして倒れたので同僚2人で体を冷やすなどの応急措置をして救急車で病院に搬送し治療を行ったが、後日死亡した。	30202	1～9
2009	8	13 ～ 14	汚水管理設工事現場で、交通誘導作業を行っていた被災者が、午後1時20分頃、交通誘導箇所を離れ、堀に片手をつきながら、ふらついて歩いているところを元請のドラグ・ショベル運転手に発見され、被災者の同僚に伝えた。同僚が被災者を近くの公園に連れて行き、ベンチに寝かせた。その時駆け付けた他の同僚が救急車を要請し、病院に搬送した。治療を行ったが、翌日死亡した。	170201	50～ 99
2009	8	14 ～ 15	木造2階建て、倉庫兼住宅増築工事現場において、被災者と事業主2人で、朝から屋根仕舞作業を行っていた。被災者の調子が悪そうに感じた事業主は、早めに休憩をとり、約15分後に作業再開したが、被災者の手が震えていたの	30202	1～9
			で、作業を止めて休憩所脇に座らせた。しかし、ぐったりしてきたため病院に救急搬送し、治療を行ったが、後日死亡した。		
2009	8	17 ～ 18	被災者は災害発生日の3日前に入社し、研修として2tトラックで1日80軒程度の自宅への配達補助業務を行っていた。被災日の朝は異常はなく、いつもどおり勤務していたが、午後から配送中に気分が悪くなり、路上でうずくまったため、同行していた運転手がスポーツドリンクを与え、応急処置を施すとともに救急車を要請し、病院へ搬送された。しばらく意識不明の状態が続いたが、後日死亡が確認された。	40302	30～ 49
2009	8	13 ～ 14	被災者は、塗装工事に使用していた足場の解体作業に従事していたが、午後から体調が悪くなり、入院し死亡した。	30209	1～9

2009	8	12 ～ 13	屋根スラブ上での配筋作業において、午前中の作業を終えて被災者と同僚が昼休みに入ろうとしたところ、被災者は屋根上でよろけており、自ら足場を降りたが、しゃがみこんだ。同僚らに手助けされ休憩室まで移動後、救急車で病院へ搬送されたが、後日死亡した。	30201	50～ 99
2009	8	16 ～ 17	被災者は災害発生当日の朝から熱交換製品工場内でMIGロボット溶接作業に従事し、所定就業時間まで勤務した。被災者は引き続いて超過勤務に従事し、台車による運搬作業を行っていた。超過勤務から約30分後、被災者が工場内の水没槽付近をふらつきながら台車を運搬しているところを同僚らが発見、119番通報し救急車で搬送したが、同日死亡した。	11101	1001 ～ 9999
2009	7	16 ～ 17	地下1階にて床の配筋作業を行っていたところ、突然倒れ、周りにいた作業者が心臓マッサージ及び人工呼吸を施したが搬送先の病院で死亡した。	30201	10～ 29
2008	7	13 ～ 14	牧場内にある休憩所のトイレ前で被災者が倒れているのが発見された。医療機関に搬送したが死亡した。被災者は、午前中のトラック整備作業終了後、休憩のため午後0時30分頃に休憩所に戻り、昼食をとらずにそのまま休んでいた。	70101	1～9
2008	7	14 ～ 15	被災者は、林道建設予定地の測量作業の下見のため同僚1名と共に現場の山中を歩いていた。14時30分、同僚に疲労を訴えて日陰で休息していた。30分経っても回復しないため、救急車を呼んだが、救急車の入れない山中のため被災者の搬送に時間がかかり死亡した。	170209	1～9
2008	7	14 ～ 15	農業用水路工事において、被災者は、横断暗渠（コンクリート二次製品）を切断するための道具を約20m離れた車まで取りに行った。帰りが遅いため、同僚が車の方向を見たところ、被災者は車から離れ、現場とは反対方向に歩行し、その後、田圃へ転落した。病院へ搬送されたが死亡した。	30199	1～9
2008	7	17 ～ 18	被災者は、集じんダクトを塗装するために屋外で手持ち式グラインダー等によるケレン作業に従事していた。作業終了後、車で帰宅途中に交差点で停車中の車両と追突事故を起こした。追突後、被災者が追突車両の相手と話している途中、口から泡を吹き出し倒れて死亡した。	11209	1～9

2008	6	11 ～ 12	中間製品を浸炭焼き入れするための加熱炉のウォータージャケットの補修工事が終わり、当該炉でテスト品を入炉した後、同炉の南北2箇所の安全弁の縁から白煙が上がるトラブルが発生した。そのため、熱源電気ヒーターが稼働した状態の同炉の上に被災者があがった。その後、昼休みになっても被災者が昼食を取りに戻らないため、同僚が捜したところ、同炉の上で倒れている被災者を発見した。	11502	100 ～ 299
2008	6	17 ～ 18	被災者は建造中の船舶内で清掃作業等に従事していたところ、具合が悪くなり搬送先の病院で死亡した。	11501	1～9
2008	7	16 ～ 17	被災者は、夕刊を配達中に歩道上で四つん這いになっていたところを近隣住民に救急通報をされて病院に搬送されたが死亡していた。なお、災害直前に事業主へ配達中にバイクを転落させてしまった旨の連絡があり、被災場所がそこから次の配達先へ向かうルート上であったことから、バイクを放置し歩いて配達を続けていた。	80205	10～ 29
2008	7	12 ～ 13	個人宅の外装工事（外壁塗装、屋根漆喰塗り）で、被災者は屋根の漆喰塗り作業を行っていた。昼休憩を取る直前、体調不良となり病院に搬送されて容態が回復した。その後、自宅で容態が急変して救急車で近くの病院に搬送されたが死亡した。	30209	1～9
2008	7	17 ～ 18	個人住宅（木造平屋）の解体工事において、当日に予定していた作業を17時頃に終え、被災者及び現場主任が散水、清掃作業を10分程度行った。現場主任が被災者に対して水道の蛇口を閉めるよう指示し、被災者が閉めに行ったが戻って来ないので見に行ったところ、被災者が倒れていた。救急車で病院へ搬送したが死亡した。	30199	1～9
2008	7	15 ～ 16	作業場（トラックヤード付近）で、被災者と同僚1名がナイフを用いて、コンテナ緩衝材に付着した接着剤の除去作業を行っていた。午後3時頃、同僚が先に休憩を取り、被災者は作業を続けた。作業場近くの自動販売機の付近で被災者が倒れているのが発見された。	11502	30～ 49
		16	被災者は、事業場1階の水洗場で機械を使用して洗濯業務に従事していた。		

2008	7	～ 17	その後、水洗場の作業机脇の床にぐったりと腰を下ろしている被災者が発見された。	11703	1～9
2008	7	13 ～ 14	道路の新設工事現場において、午前8時半頃から草刈り作業に従事していた被災者は、昼休み休憩後に作業を開始しようとしたが体調が悪くなり、自宅に帰ろうと車に向かって歩き始めたが、まっすぐ歩けないような状態だったので、現場代理人が病院に運んだが死亡した。	30106	10～ 29
2008	8	～ 16	宅地造成工事現場の土木作業に従事して2日目、朝から側溝の掘削、砂利の敷き均しを行っていたところ、午後2時頃から被災者が体調を崩して自家用車の中で休憩していたが、午後3時ごろに被災者の行方が分からないため、現場周辺を搜索したところ、約30分後に現場から約134m離れた道路沿いの雑草の茂みの中に倒れているのを発見したが死亡していた。	30109	1～9
2008	8	14 ～ 15	ガソリンスタンドの解体工事現場において、事務所1階内部の解体作業（小型ドラグ・ショベルによる内装材の解体）で発生した石膏ボード、金物類等を分別して現場内に置かれていた廃棄物を入れるボックスに運搬する作業を行っていた。その際、被災者に手の震え、足元のふらつきがあるのを同僚に発見されて、現場で休憩後に病院に搬送されたが死亡した。	30209	30～ 49
2008	1	12 ～ 13	気温6.3℃、風速7.2m/sの気象状況下で事業場内の滝湯にて行われた「初滝」に従事し、禪に濡褌の姿で体に滝水を浴びた後、水に濡れたままの状態 で信者の滝行に約20分立ち会った。その後、更衣室で着替え中に卒倒し、病院に搬送されたが死亡した。	170209	1～9
2008	8	16 ～ 17	橋梁工事にかかる足場解体作業において、床版上で解体した足場材を台車で運搬・整理していたところ、意識を失い、病院に搬送後、死亡した。	30105	10～ 29
2007	7	18 ～ 19	工場内において、ダンボール製造の作業が終了し、皆で後片付けをしていた時、被災者が具合が悪そうにしていたため、同僚が工場内の扇風機のあるところで10分ほど休ませ、その後、エアコンの効いた事務所へ移動して休ませていたが、5分ほどして被災者の意識がなくなってきたため、病院に搬送	10609	10～ 29

			したが、死亡した。工場内は36℃近く気温があった。		
2007	8	17 ～ 18	出張先の除じん機械室において、害虫熱駆除システムによる害虫駆除業務（温風を発生させ、室温を55℃前後に保ち約40時間加温する）中、4時間毎に点検・温度測定のために作業者が室内に立ち入っていた。40時間の加温が終了し、後片付けの作業中、被災者が「気分が悪い」と訴えたため別室で休憩していたが1時間後に心停止状態で発見された。	150101	1～9
2007	7	16 ～ 17	駐車場舗装工事において、午前中に路盤工を終了し、午後から舗装を始めた。15時頃、被災者が少しふらついたので、上司に日陰で休むよう指示され、休憩していた。約1時間して通行人からの知らせで様子を見に行くと、被災者は意識不明の状態であったため、病院に搬送されたが、死亡した。	30199	1～9
2007	6	16 ～ 17	住宅補修工事現場において、補修・点検作業を行っていた作業者が、敷地に隣接する屋外の既設コンクリート階段の最下段付近で仰向けに倒れているのを発見された。高温環境での作業であった。	30202	10～ 29
2007	6	16 ～ 17	地籍調査測量中、被災者は測量地点にてポールを保持する作業を行い、他の測量地点へ移動中に姿が見えなくなったため同僚が探したところ、牧草用地内に倒れているのが発見された。	170209	10～ 29
2007	8	15 ～ 16	建物等解体除去工事現場で解体手元作業中、体調が悪いと座り込み、作業を中止し寝転んで休憩していたが、5～10分後、身体が震えた状態で意識消失状態となり、病院へ搬送後、死亡した。	30309	10～ 29
2007	8	6 ～ 7	会社寮の自室にて就寝中、けいれんを起こして死亡した。なお、前日、会社の加工場（屋外）の整理・整頓（残鉄筋の区分け及び新たに入庫される鉄筋置場の確保等）を行っていた。最高気温37.4℃と炎天下での作業であった。	30201	1～9
2007	8	11 ～ 12	被災者は、マンション新築工事現場において、ガラ集積作業・運搬作業を行っていた。午前11時頃、職長が足元がおぼつかない被災者に気付き、詰所で休憩させていたが、被災者の呼吸の異常に気付き、病院に搬送したが、死亡した。	30201	1～9

2007	8	15 ～ 16	ガス工事現場に於いて、警備（交通整理）作業中、真夏の炎天下の中の作業であるので、体が疲弊しないように何度も休憩を取りながら作業をしていたが、休憩を一旦終えて所定の作業場所に就いてしばらくしたところ突然倒れた。	170201	1～9
2007	8	12 ～ 13	基礎工事中の建設現場において型枠大工が作業を終了して軽トラックに廃材を積んでいる最中に突然倒れ、救急車で病院に運ばれたが死亡した。	30201	1～9
2007	5	1 ～ 2	営業所の事務所内休憩室で仮眠中に食堂のゴミ箱付近より出火し、被災者は火災場所にたちすくんでいたために煙を吸い込み死亡した。	170201	10～ 29
2007	4	6 ～ 7	山小屋の開業準備のため、被災者他4人が、山小屋を出発し山奥の小屋に向かったが、正午頃、天気が急変した。午後2時頃、先頭の被災者が雪庇を踏み抜き約20m滑落した。他4人は被災者に先に行くよう指示され、午後4時頃、山小屋に到着したが、被災者は到着せず、翌朝、雪洞の中で発見されたが、既に死亡していた。	140101	1～9
2007	8	17 ～ 18	高等学校改築工事（第1体育館棟・建築）において、建築中の体育館屋上で解体した型枠材の片付け作業に従事していた被災者が、気分が悪くなり座り込んだため、しばらく休ませていたが、症状が良くならないため救急車で病院に搬送されたが死亡した。	30201	1～9
2007	8	14 ～ 15	ビル屋上防水工事において、パラペット立ち上がり部分のコーキング作業を行っていた被災者が、しゃがみこみ、意識がなくなったため、病院に搬送されたが死亡した。当時の気温は35.5℃であった。	30201	1～9
2007	8	2 ～ 3	ラーメン店の厨房内において、ラーメンに入れる具材を切ったり、おつまみにする揚げ物等を作る作業を行っていたところ、足元がふらふらする体調不良の状態に陥り、屋外へ通じている通路でしゃがんで休んでいたが、更に体調不良の症状が悪化し、約25時間後に死亡した。	140201	1～9
		16	当日、同僚と倉庫内でホームセンター店舗の各種商品の仕分け作業を行っていた。勤務終了時間近くになって、同僚が被災者の姿が見えないことに気		50～

2007	8	～ 17	がついて捜したところ、倉庫内のトイレの中で意識のない被災者を発見した。なお、災害発生地の当時の気温は30.1℃であった。	50101	99
2007	8	17 ～ 18	セメント材料（水砕スラグ）の受入作業に従事する被災者は、受入ホッパー下の地下室においてベルトコンベヤーから漏れ落ちたスラグをベルトコンベヤーに戻す作業中倒れた。災害発生当日、気温は28.7℃、湿度は72%であった。	10901	100 ～ 299
2006	8	15 ～ 16	木造2階建新築工事現場における瓦葺き作業において、瓦を荷上げタワーに積み込む作業を行っていたところ、休憩の際に気分が悪くなり病院に搬送された。当日の天候は晴れ、気温は32.4℃、相対湿度59%であった。	30202	1～9
2006	7	13 ～ 14	山林内で森林作業道開設にかかる調査を被災者と同僚の2名で行っていた。作業終了後、被災者は平坦な山道を行くため、同僚と分かれて歩いて帰っていたが、先に待ち合わせ場所に着いた同僚が到着の遅い被災者を探しに戻ったところ、傾斜地の木の根元で倒れている被災者を発見した。	60201	30～ 49
2006	7	17 ～ 18	被災者は霊園内で、バケツ10杯分の土を掘り、一輪車で運搬する作業後、草や竹などを屋外の焼却用の穴に入れ焼却する作業を社長とともにやり、霊園内のベンチで休憩した。その後、被災者を目撃したものはおらず、被災者を搜索していたところ、休憩したベンチ南側の崖から約15m下に被災者が転落しているところを発見した。	170209	1～9
2006	8	11 ～ 12	午前8時30分から一人で残材を、焼却炉にくべる作業をしていた。午前10時に休憩をとった後、再び作業を行っていたが、その後気温の上昇と炉の熱さも加わり、被災者が倒れた。昼休みを終えた同僚に発見されたが意識がなく、死亡が確認された。	30202	1～9
2006	8	15 ～ 16	被災者は産業廃棄物溶融処理設備の排ガス処理系の煙道に付着した灰のはつり作業を行っていたが、午後目撃されたのを最後に、姿が見えなくなった。翌日の午後、4階煙道の裏側で被災者が発見された。	30302	10～ 29
2006	8	15 ～	コンクリートの打設作業中に倒れている被災者を別の作業員が発見した。被災者はこのとき既に意識がなく、すぐに救急車を呼んで病院へ搬送されたも	30201	1～9

		16	の意識が回復することなく死亡した。		
2006	8	11 ～ 12	立坑復工架設作業を行っていたところ、１１時３０分ごろ、被災者が休憩したいと申し出があり、少し日陰で休憩した後、仕事に戻ったが、１１時５５分ごろ、再度、休憩を申し出、日陰で休憩した後、現場に戻ろうとふらついているのを同僚が発見し、制止し、水をかけ、スポーツドリンクを飲ませ病院へ搬送したが、死亡した。	30110	1～9
2006	7	15 ～ 16	建設工事現場の植樹作業中に、植栽工が気分が悪いと同僚に告げ休憩をとりに植樹作業場から離れ姿を消した後、約１時間後に作業場からは死角となる方角５０mあたりに倒れている被災者が発見された。	30199	1～9
2006	8	15 ～ 16	幼稚園増築工事現場において、既設フェンスの撤去に伴って出た解体後のフェンス部材を、仮置場から約３５m離れた集積場所に、手作業で運搬する業務を行っていたが、午後、敷地外で倒れているところを第三者に発見された。被災者は、救急車で病院に搬送されたが、翌日に死亡した。	30201	10～ 29
2006	8	15 ～ 16	木造家屋解体工事現場にてホースで廃材等に水撒きをしていた被災者は、気分が悪くなり、足元がふらつく等して水撒きができない状況になったため、同僚が現場に止めていたダンプカーの車内でエアコンを効かせ５分程休ませた後、同ダンプカーで被災者の自宅近くの病院に搬送中、車内でぐったりとなったので、直ちに救急車で病院に搬送したが、死亡した。	30209	1～9
2006	7	15 ～ 16	擁壁倒壊防止緊急対策工事において、擁壁工事にかかる補助作業として、鉄筋等の資材を運搬作業中、気分が悪くなり、日陰で休んでいたが、息遣いが荒くなり、意識が朦朧とした状態であったため、救急車にて病院に搬送したが、死亡した。	30199	1～9
2006	7	14 ～ 15	木造家屋の屋根の葺替等の改築工事において、被災者は片付け、清掃、資材の運搬などの作業を行っていた。水を飲むため、作業場所を離れた。作業に復歸してまもなく、足場上にて倒れた。	30202	1～9
2006	7	16 ～ 17	法面工事終了後、材料等をトラックに積み込む作業を行っていた被災者が、座り込んでいたところを同僚に発見された。発見時、被災者は意識がはっきりせず、救急車で病院へ搬送されたが、死亡した。	30109	1～9

2006	7	14 ～ 15	事業場内の焼却炉の付近において、建築廃材を焼却作業中、被災した。	30209	1～9
2006	7	15 ～ 16	軽量鉄骨 2 階建住宅改築工事において、2 階造作及び 2 階屋根裏の電気配線作業を行っていた。2 階床面で作業を行っていた同僚労働者が屋根裏から「いびき」のような音を聞き、不審に思い屋根裏に上がったところ、意識を失い、うつ伏せ状態の被災者を発見した。天井部分を破って救出し、病院に搬送したが死亡した。被災者を救出後に屋根裏の気温を測定したところ、38℃であった。	30203	1～9
2006	6	15 ～ 16	被災者は、コンクリートを打設するため、工場で加工された鉄筋を、建設工事現場において組み立てる作業に従事していたところ、体調が悪くなり、日陰で休憩したが、体調が回復せず、自力で自転車に乗り、居住している寮へ帰宅した。職長が被災者が帰ったことを聞き、被災者を追いかけたところ、帰宅途中の道端で倒れているのを発見し、病院へ搬送したが、死亡した。	30201	1～9
2005	8	0 ～ 1	30℃を超える中、生コンクリート打設作業及び表面の仕上げ作業等を行っていたところ、倒れ、意識不明となった。	30111	10～ 29
2005	7	19 ～ 20	建物立替・新築工事現場からワゴン車で帰る途中で車の中で気分が悪くなり、足がつる、目が見えなくなってきた等の症状を訴え、車の中で意識を失った。	30201	1～9
2005	4	8 ～ 9	社員研修で登山中、呼吸が早くなり手が硬直し始め、過呼吸症候群の症状が出たため、応急措置を取るも改善されず、病院に搬送された後、死亡した。	170209	300 ～ 499
2005	7	10 ～ 11	屋外で栈干しされた製材済みの木材を段積みして結束する作業中、半束程度を積み重ねたときに熱中症により具合が悪くなり倒れた。	10401	10～ 29
		11	RC造3階建家屋の建築工事現場において、被災者は、配筋作業を行っていた		

2005	9	～ 12	ところ、体調不良となり、死亡した。	30201	1～9
2005	8	0 ～ 1	道路改良工事において資材の片付け等の作業に従事中、体調不良を訴え、熱中症により死亡した。	30199	10～ 29
2005	7	16 ～ 17	店舗内部解体工事において、廃材等の外部への搬出作業を行っていたところ、体調不良となり、その後、死亡した。	30201	10～ 29
2005	7	14 ～ 15	製鉄所構内の薄板工場で、熱延ラインに設置された機械部品を取り替える作業中に、作業環境が暑熱な環境であったことから、脱水状態・熱中症となった。	11001	100 ～ 299
2005	7	13 ～ 14	2階建鉄骨造個人住宅の新築工事現場において、スコップを使用して、外構、アプローチ部分の路盤の整地作業に従事していたところ、突然、その場に座り込み、その後、死亡した。	30201	30～ 49
2005	8	17 ～ 18	帰宅する途中、工場内を歩いていて倒れた。	80401	30～ 49
2005	8	16 ～ 17	工場建屋内において、油圧昇降リフターを使用して自動車シート運搬用のパレットを運ぶ作業中、被災者が熱中症になり、パレットにもたれかかるように倒れた。	40301	10～ 29
2005	8	11 ～ 12	コンクリート製側溝蓋の製作作業後、急に意識障害を起こし、死亡した。	80209	1～9
2005	9	18 ～ 19	被災者が缶飲料を自動販売機に充填する業務を終えて事業場に戻った時、熱中症により具合が悪くなった。	80109	10～ 29
		15	マンション建設現場にて、被災者は同僚とともに高温下で屋上階のコンク		10～

2005	6	～ 16	リートスラブ均し作業を行っていたところ、体調不良となり倒れた。当日の最高気温は36℃であった。	30201	29
2005	8	19 ～ 20	トラックにダンボール等を積み込んでいる途中、突然意識不明となった。	150102	1～9
2005	6	11 ～ 12	工場内でプレスを使用して鋼板の切断作業中、熱中症のため急に気分が悪くなった。	11203	1～9
2005	7	16 ～ 17	競走馬育成牧場の厩舎内において、厩舎の清掃作業等を体験就労中、熱中症により体調不調を訴えた。	70101	10～ 29
2005	9	15 ～ 16	工場内にトラックを停車した後、熱中症で倒れた。	40301	1～9
2005	5	15 ～ 16	蒸気によりハウス内の製品を加熱殺菌する設備で熱処理作業中、ハウスの内部に入ったところ扉が閉まり、閉じ込められた。	10101	100 ～ 299
2004	7	16 ～ 17	新築マンションの工事現場にて、外部足場を降りてきた被災者の様子がふらふらとしておかしいので、2階のベランダにてハツリ作業をしていた他社の作業者が気付き休ませていたが回復しないため、被災者の所属する事業場の事業主が被災者を自宅に連れ帰ったところ熱中症で死亡した。	30201	10～ 29
2004	7	15 ～ 16	中学校の大規模改修工事現場において、校舎3階のトイレのはつり作業に伴うガラの撤去作業を行っていたところ、休憩時間中に気分が悪くなり、同僚の車で病院に搬送されたものの熱中症で死亡した。	30209	50～ 99
2004	7	15 ～ 16	屋根のない屋外にて検査等の作業に従事した後、熱中症となった。	170209	300 ～

2004	9	11 ～ 12	中央分離帯のガードレールを据え付け作業中に気分が悪くなり、病院に搬送された。	30106	1～9
2004	7	15 ～ 16	屋外にて屋根部材の段取り作業を行っていた作業者が、午後の休憩後、動くことができず、休憩していたマイクロバスの中で意識を失った。	30201	100 ～ 299
2004	8	14 ～ 15	側溝のコンクリート打設作業のため2 tトラックの荷台上で生コンをスコップでバケツに入れる作業中、熱中症となった。	30109	10～ 29
2004	7	13 ～ 14	工事現場において、電柱の転倒防止用支線（鋼鉄製ワイヤー）を撤去し、撤去跡を舗装する作業中、熱中症となった。	30301	1～9
2004	8	15 ～ 16	マンション建設工事現場において、圧接作業の補助を行っていたところ、体調が悪くなった。	30201	1～9
2004	7	17 ～ 18	木造2階建て住宅の改修工事現場において、既存の床や壁材の解体作業を行っていたところ、熱中症になった。	30202	1～9
2004	7	15 ～ 16	民間木造2階建て住宅のリフォーム工事において、コンパネ貼り作業の補助を行っていたところ、熱中症となった。	30209	1～9
2004	8	14 ～ 15	成型工場内で製造された製品を乾燥室に搬入する作業を行っていたところ、熱中症となった。	10805	100 ～ 299
2004	7	9 ～ 10	木造住宅新築工事現場において、朝から基礎掘削作業に従事していたところ、熱中症になった。	30202	10～ 29

2003	9	15 ～ 16	仮払機による草刈り作業中に、倒れて痙攣を起こしたため病院に移送したが死亡した。（熱中症）	60209	10～ 29
2003	9	15 ～ 16	耐火物原料の粉碎、乾燥、袋詰を行う工場において、乾燥機（ロータリーキルン）で原料を乾燥させる作業に従事していた者が乾燥機のホッパー横の床面に仰向けに倒れているのを同僚に発見された。（熱中症）	10905	1～9
2003	9	10 ～ 11	JR線の高架化に伴う信号設備改良工事において、仮線路上でケーブル保護用トラフ（コンクリート製）の運搬作業を行っていて倒れた。（熱中症）	30301	50～ 99
2003	8	16 ～ 17	熱処理工場で、熱処理を終えたボルトが入った鉄製の容器をハンドパレットを使って移動させる作業を行っていて、熱中症となり突然ふらついたので病院に移送したが容態は回復せず、翌日多臓器不全で死亡した。	11502	50～ 99
2003	8	18 ～ 19	重油バーナーでロールの焼嵌（ば）め作業中に、温度が高くなり仕事中に何回も水分を補給していたが、18時頃に会社の駐輪場で倒れた。（熱中症）	11209	1～9
2003	8	15 ～ 16	市道の草刈り作業中、15時頃に休憩をとるため同僚が声をかけようとしたが姿が見えないので探したところ、うずくまっているのを発見した。（熱中症）	11009	10～ 29
2003	8	14 ～ 15	2階建新築工事において、足場の組立て作業を行って残った足場材をトラックに積み込んでいたところ、突然、言動がおかしくなったためトラックの助手席で休憩させていたが、そのうち意識がなくなってきて熱中症により病院で死亡した。	30201	1～9
2003	8	10 ～ 11	ゴルフ練習場周りのネット用鉄柱の梁部分（地上より高さ21m）塗装が終わり、その近くの交差筋かい部分の塗装を行う準備中に突然痙攣し始め、病院に搬送したが死亡した。（熱中症）	30209	1～9
2003	8	10 ～	7階建マンションの屋上防水工事において、屋根材のはつり作業を行っていた者が熱中症のため死亡した。	30203	1～9

		11			
2003	8	15 ～ 16	工場内の雨水等排水施設工事において、その日の作業を終えて清掃・片づけ作業していたところ、1人が急に現場を離れて所在が不明となったので付近を探したが発見できず、工事現場から500mほど離れた公道上で熱中症により倒れていた。	30309	1～9
2003	7	16 ～ 17	下水道管敷設工事現場で交通誘導業務を行っていて、熱中症で死亡した。	170201	300 ～ 499
2003	7	14 ～ 15	道路改良工事において、測量の邪魔になる雑木・草を草刈り機で刈っていて熱中症により突然倒れた。	30199	1～9
2003	7	11 ～ 12	マンション建設工事において、建物6階のコンクリート打設作業者が突然体調不良を訴え、最寄の病院に行ったものの医者の診察を振切って病院を抜け出し熱中症により路上で倒れた。	30201	10～ 29
2003	6	16 ～ 17	自動車道の保全工事において、盛土法面（のりめん）の草刈り作業中に気分が悪くなり木陰で休んでいたが、意識がもうろうとした状態であったので救急車で病院に搬送したが熱中症により死亡した。	30199	1～9
2003	6	17 ～ 18	駐車場入口部分の歩道切下げ工事において、午前8時頃から午後5時まで石張り作業を行っていた作業員がトイレ脇に倒れていた。（熱中症）	30199	10～ 29
2002	8	17 ～ 18	駐車場整備工場で一輪車を用いて色付ブロックを敷詰めする作業に従事していたが、夕方になって足がもつれるように倒れ込み、まもなく意識不明となった。（熱中症）	30199	1～9
2002	8	16 ～ 17	防音工事において、2階外壁部の足場上で壁下地を撤去作業していて急に足場の上でふらついてしゃがみこみ、熱中症で死亡した。	30202	1～9
			土木工事を終えて元請現場責任者1名を含む5名が下山を開始したが、下山途		

2002	11	16 ～ 17	中に1名の具合が悪くなったので下山をいったん中断し様子を見ていたが死亡したものとは推定し、その者を置いて下山を再開した。しかし、腰までの積雪のため身動きが取れなくなり、翌日にヘリコプターで救助されるまで遭難状態となった。	30199	10～ 29
2002	8	16 ～ 17	小学校の大規模改造工事において、トラックから足場部材を降ろす作業を行っていた者が身体の不調（足がつる症状）を訴えたため、病院に移送したが熱中症により死亡した。	30201	10～ 29
2002	8	0 ～ 1	石油会社の構内において、20 t トレーラーで運ばれてきたコンテナ内の「白土」の袋（20 k g）をフォークリフトで倉庫へ移動させる作業中、急に気分が悪くなったので救急車で病院に移送したが死亡した。	50201	10～ 29
2002	8	14 ～ 15	産業廃棄物処理会社の焼却炉の蓋の補修工事において、当日の朝まで焼却が行われていたため午前7時から炉内の灰に水をかけて炉を冷やし午前10時から作業を開始したが、午前2時頃に気分が悪くなり屋外の休憩場所で休んでも回復しないので病院に移送したが死亡した。（熱中症）	150102	10～ 29
2002	8	11 ～ 12	住宅新築工事において、型枠解体作業中に急に現場から姿が見えなくなり、現場から約400m離れた場所で倒れていた。（熱中症）	30209	10～ 29
2002	8	16 ～ 17	住宅新築工事において、基礎材（長さ3m60cm、高さ60cm、幅15cm）を固定する接続板を据付けるためのモルタル練りを一輪車の上で行っていたが、3時の休憩のときに気分の悪さを訴えて現場から出て行ったので同僚が心配して後を追ったところ、急に走り出して100mほど走った地点の道路の歩道面で倒れ意識を失った。（熱中症）	30202	10～ 29
2002	8	0 ～ 1	橋上部工事で支保工組立作業に従事していたが、昼前に体調不良を訴え日陰で休み、他の作業員より一足早く宿舎に戻る途中の路上で倒れた。（熱中症）	30105	30～ 49
2002	7	17 ～ 18	屋内作業場でエルボ管（水道管の内側に塩化ビニル管を圧着させたもの）のアタッチメントの取り外し作業中、気分が悪くなり救急車で病院に移送したが死亡した。	11209	50～ 99

2002	8	16 ～ 17	朝から屋上で型枠設置作業を行った後、4階へ移動して4階天井スラブ面のダメ穴を塞ぐための作業を1人で行っていて倒れた。（熱中症）	30201	1～9
2002	8	14 ～ 15	取壊した建築廃材の袋詰め作業中、作業者の異常に気付いて床に座るように指示をしたが意識が無い様子で、数人で横にすると嘔吐して意識不明になったため、病院に運んだが死亡した。	30209	50～ 99
2002	7	14 ～ 15	焼却灰から金属類の除去作業中、暑さのため体調不良となり日陰で休憩していたときに痙攣を起こし、意識不明の状態に陥って病院へ運ばれたが死亡した。	150109	10～ 29
2002	7	11 ～ 12	落石防止ネットを張るための金属パイプを肩に担いで110mほど運搬する作業中、作業開始より体調が悪く途中休みながら作業していたので同僚が涼しいところで休むように指示をして現場を離れた直後にうつ伏せで倒れて死亡した。（熱中症）	30199	1～9
2002	7	11 ～ 12	型枠の解体作業で、解体材の整理作業を行っていて突然体調不良を訴え、現場内の休憩所で約1時間休憩したのち、病院に移送したが死亡した。	30209	1～9
2002	7	10 ～ 11	高速道路高架橋工事において、高欄の鉄筋組立に従事していて、午前の2回目の休憩時間中に気分が悪くなったのち意識不明になり、病院に運ばれたが死亡した。	30105	1～9
2002	8	14 ～ 15	川堤防において、肩掛けの刈り払い機による除草作業中に熱射病で倒れ死亡した。	30199	10～ 29
2002	7	16 ～ 17	電柱の移設工事において、ドラグショベルで1m掘削してアルミ製の矢板で土止めを行い掘削した箇所へケーブルを設置して20cm程土を埋め戻したのち矢板を人力で引き抜いていたところ、急に気分が悪くなりエアコンの効いた車の中で休息していたが手足に痙攣がきて入院後死亡した。（熱中症）	30301	10～ 29
		17	海中に打ち込まれた鋼製杭（直径60cm）にこびりついたフジツボや貝など		10～

2002	7	18	～	をケレン棒を用いてかき落とす作業が終了し、後片付けを行って衣服の着替え中に体調不良を訴え意識不明となった。	30111	29
2002	7	14	～	炎天下の屋外路上において、配管等埋戻し後の本舗装を行うため午前中より準備作業を行っていたが、午後になって意識朦朧としていたので、日陰で休憩させたが容態が悪化した。	170209	1～9
2002	7	18	～	橋桁内で制振装置の調整作業中に気分が悪くなり、約10m橋梁内を歩行したがその場で倒れた。（熱中症）	30105	1～9
2001	7	11	～	動力式擁壁の埋め戻し作業を行っていて午前中の作業が終わった頃に体の不調を訴え、トラック内でクーラーにあたりながら昼食休憩を採ったのち帰宅したが室内で死亡した。	30199	1～9
2001	8	16	～	カステラ製造の洗い場で、カステラ製造に使用する枠(質量1150g)の枠洗い作業を終了したのち4階の食堂で10分ほど冷水を飲みながら休憩し更衣のため3階の更衣室に向かう途中の階段で急に苦しみだしたため、近くに居合わせた同僚4人で病院に移送したが死亡した。	10104	100～299
2001	9	0	～	定置網漁で僚船から受入れた魚を漁港に水揚げしたのち、僚船の操業する漁場への途中でラジエターに水を補給した際、ラジエターキャップが機関室内に落下したので捜すため同室内に入ったがそのまま動けなくなった。（熱中症）	70201	10～29
2001	8	16	～	路面の舗装工事で、舗装用型枠材を運んでいた者が道路中央に座り込んでしまったので、病院に移送したが熱中症で死亡した。	30106	10～29
2001	8	9	～	資材の片付け作業を行っていた者が気分が悪くなったので現場事務所で休憩後、病院に移送したが熱中症のため死亡した。	30201	1～9
2001	7	10	～	植林地で下草刈り作業を行っていたが、休憩時間になっても同僚が降りてこないのので、作業場所まで行ってみると仰向けで倒れていた。（熱射病）	60209	10～29

2001	7	14 ～ 15	片側3車線道路の本線及び路側帯の清掃作業において、枯れ草、ごみ、缶等 を竹ぼうきを用いて収集していたところ気分が悪くなり、道路横の日陰部分 で休憩していたが意識を失ったので病院に移送したが熱中症で死亡した。	150103	1～9
2001	7	14 ～ 15	店舗の改修工事において、8名で店舗内部壁の間仕切りボードを解体し残材 の搬出作業を行っていたところ、気分が悪くなり倒れたので病院に移送した が熱中症により死亡した。	30209	1～9
2001	7	17 ～ 18	工場において終業準備中に気分が悪くなり、病院に移送されたが熱中症のため死亡した。	11209	30～ 49
2001	7	10 ～ 11	2名で3～5Fのボードを1Fまで運ぶ作業を行っている途中でハウス横の自販 機にジュースを買いに行き約5分後に戻ったところ、1F廊下部分に倒れてい る同僚を発見した。(熱中症)	30201	10～ 29
2001	8	11 ～ 12	道路新設工事の地盤改良作業において、整地作業が終了し午後から発注者の 検査に向けて検査用の穴をスコップで掘っているときに、倒れて意識不明に なったので、病院に移送したが、熱中症で死亡した。	30106	10～ 29
2001	8	13 ～ 14	SRC造14階建のマンション建築で型枠解体工として午前の作業が終わり、昼 食休憩中に体の不調を訴え横になって休憩したが体調が急変したため病院に 移送したが熱中症で死亡した。	30201	1～9
2001	8	17 ～ 18	午後3時すぎから体調不良となって作業時間のほとんどを休息し、作業終了 後も現場内で休息していたが意識がはっきりしなくなったため病院に移送し たが熱中症により死亡した。	30110	1～9
2001	7	16 ～ 17	建築工事現場で、代表者が行っていた外装材の取付作業の補助を足場(3層 目)上で行っていて、気分が悪くなって、足場から降り便所に向かう途中で 倒れ、病院に移送したが熱中症で死亡した。	30202	1～9
2001	7	13 ～ 14	朝から河川のブロック積み作業に従事し、昼の休憩後、他の作業員が作業箇 所にうつ伏せに倒れているのを発見し、病院に移送したが熱中症により死亡 した。	30107	1～9

2001	7	16 ～ 17	炎天下、刈払機で国道の法面の除草作業を行っていたところ、突然気分が悪くなり、病院に移送されたが、熱中症で死亡した。	30209	1～9
2001	7	14 ～ 15	線路の敷板とレールを固定するための「板ばね」を製造する工程で、高温の炉から出てきた製品を検査する担当者が、作業場所で倒れていたのを同僚が発見し病院に移送したが熱中症で死亡した。	11209	50～ 99
2001	7	15 ～ 16	住宅地の造成工事において、掘削箇所をスコップで均す作業や埋戻し土の転圧作業を行っていて休憩のため作業を中断したときに、座り込んで意識がなくなかったので病院に移送したが熱中症で死亡した。	30209	50～ 99
2001	7	16 ～ 17	熱交換器などの整備工事において、足場組立作業に従事していた者が場内をふらふらしながら歩いているのを発見し病院へ移送したが死亡した。(多臓器不全)	30302	30～ 49
2001	7	18 ～ 19	朝9時から17時頃まで約1200㎡のアスファルト舗装工事場所で転圧ローラーの後方の掃除等の作業を行い、作業終了後、会社の車に同乗して自宅近くまで送ってもらい歩いて帰る途中に倒れて死亡した。(熱射病)	30106	1～9
2001	7	14 ～ 15	造林地のヒノキ4年生の下刈作業中に作業者に声をかけたところ「えらい」という返事があったが、その後、声をかけても返事がないので頭部を濡れタオルで冷やすとともに救急車を呼んだが熱中症のため死亡した。	60209	50～ 99
2001	7	0 ～ 1	木造家屋新築工事において、昼食が終わったときにぐったりとしているので病院に移送したが熱中症で死亡した。	30202	1～9
2001	5	16 ～ 17	作業員寮がある敷地内において紙くず等のゴミをドラム缶で燃やしていたところ、火の粉が服に燃え移り上半身を火傷した。	30106	1～9
2001	5	15 ～ 16	送電線に近接する支障木の伐木を行っていて、熱射病により死亡した。	30309	1～9

2001	5	7 ～ 8	敷地内に掘った約3.3m四方(やや扇形)、深さ約1.5mの焼却用の穴で、事業場の隣家から伐採した竹等の廃材を焼却する作業中に焼却用の穴に落ち焼死した。	80409	10～ 29
2000	7	17 ～ 18	晴天の屋外で作業をしていて、作業を終えたのちに気分が悪いと訴えたので、救急車で病院に移送したが熱中症のため死亡した。	30106	10～ 29
2000	8	16 ～ 17	スーパーの駐車場整理のために、前々日から炎天下のもと就労していたところ、3日目の夕方になって体調の不良を訴え病院に移送されたが、熱中症で死亡した。	170201	10～ 29
2000	7	14 ～ 15	県道の災害復旧工事において、法面工事の準備作業として刈払いされた草木の除去作業中に1人の作業員が変調を来し、病院に移送したが熱中症で死亡した。	30199	1～9
2000	7	10 ～ 11	還元炉の補修工事中に、気分が悪いとして早退して入院したところ熱中症と診断され翌日に死亡した。	30309	1～9
2000	7	15 ～ 16	店舗建築工事現場の屋外において側溝の掃除及び蓋据付に従事していたが、午後の休憩時に体調不良となり軽トラックに乗車したが運転席で意識不明となり病院へ移送したが熱中症で死亡した。	30201	10～ 29
2000	8	18 ～ 19	最高気温が36.4度に達する猛暑の中で、屋根のない資材置場で作業中に気分が悪くなり、日陰で休んでいたが嘔吐して意識を失い、熱中症により死亡した。	30209	1～9
2000	7	16 ～ 17	工事現場において、擁壁の型枠パネル取付け作業中に気分が悪いと訴えたので病院へ搬送したが熱中症により死亡した。	30109	1～9
2000	7	15 ～ 16	堤防上で刈られた草を熊手でかき集める作業などを行っていたが、午後になって意識不明となり熱中症で死亡した。	30199	1～9

2000	8	9 ～ 10	直射日光下で基礎の型枠解体作業に従事していたところ、気分が悪くなり、休憩所で休んでいたが、けいれん・嘔吐をもよおしたので病院に搬送したが死亡した。(体温が41. 3℃)	30199	10～ 29
2000	6	19 ～ 20	現場でコンクリート面に付着したモルタル除去作業を午前8時から午後5時まで行って帰宅し、入浴後に夕食を採っているときに痙攣の症状となり、病院へ運んで治療を受けたが死亡した。	30201	50～ 99
2000	8	11 ～ 12	内径80 c mの鑄鉄管を布設する工事において、地下約60mのところでは延長1, 000mの鑄鉄管内の清掃作業を行っていたところ、ずい道と鑄鉄管の隙間に充填したモルタルの硬化熱により鑄鉄管内の気温が上昇したため、9人が急いで出口に向かったが最後尾から2名は自力で脱出できず熱中症となった。	30110	1～9
2000	7	16 ～ 17	枠組足場上で養生用メッシュシートの結束中に、うずくまっていたので救急車で病院に搬送したが熱中症で死亡した。	30209	1～9
2000	6	14 ～ 15	鉄筋コンクリート造建築工事現場において、前日に打設した1Fスラブのコンクリート上で同僚と墨出し作業をしていたところ、突然、全身痙攣発作を起こしたので救急車で病院へ移送したが、熱中症により死亡した。	30201	1～9
2000	3	3 ～ 4	構内の分析サブセンサーの火災報知器が鳴ったので職員2名が構内生産センサー内の浴場に直行したところ、浴槽内でぐったりしている作業者を発見した。	11001	300 ～ 499
2000	8	11 ～ 12	種子吹き付けによるグラウンドの緑化工事において、同僚と二人で材料(1個20kg)をモッコに移動作業中に気分が悪くなり、病院へ移送したが熱中症で死亡した。	30201	1～9
2000	6	15 ～ 16	坑内冷却のためのファンなどの設置用坑道の補修作業が完了したことを確認するため、現場巡視に出かけ、熱中症で死亡した。	20301	100 ～ 299
		14	舗装工事において、アスファルトフィニッシャの脇でスコップマンとして作		

1999	8	～ 15	業をしていたが、午後2時20分頃動作がおかしくなったため日陰で休ませたが、回復しないため病院に運んだが熱中症で死亡した。	30199	1～9
1999	9	14 ～ 15	朝から仮設ステージの組立作業を行っていたが、午後2時頃になって気分が悪くなり、病院に搬送し治療を受けたが熱射病と診断され死亡した。	30201	10～ 29
1999	6	15 ～ 16	建築工事現場において、型枠材の運搬作業に従事していた労働者が体調不良を訴えたので、救急車で病院へ搬送したが、熱中症のため死亡した。	30201	1～9
1999	8	14 ～ 15	木造建築現場において、コンクリート基礎(高さ120cm)の型枠解体作業に従事して意識が無くなり熱射病で死亡した。	30202	1～9
1999	7	17 ～ 18	製線工場内の通風状態の悪い仕上作業場で製品の出荷準備作業を行っていたところ、具合が悪くなり倒れ、重度の熱中症で死亡した。	11109	100 ～ 299
1999	8	19 ～ 20	家屋建築工事(1階鉄骨・2階木造)において、2階床となるデッキプレートの取付工事の現場管理を8：00～17：00の間行い19：00に帰宅したが、体調が悪いのでそのまま横になったが熱中症で死亡した。	30202	10～ 29
1999	8	16 ～ 17	屋外現場で測量補助作業に従事していたが、午後の休憩後は作業の必要がなかったため1人でそのまま休憩していたところ、仕事を終了しても姿がないため同僚が付近を探したところ、休憩場所から約150m離れた道路沿いの畑の土手に倒れていた。	30109	1～9
1999	8	16 ～ 17	朝から炎天下の屋外で土工事等を行っていたが、夕方になって休憩場所の木陰で寝ているところを発見され、顔色が悪いとため病院へ搬送したが死亡した。	30109	10～ 29
1999	7	16 ～ 17	朝から庭木の剪定作業の補助作業等を行っていたが、夕方になって気分が悪くなり、体が震え出したため、救急車で病院へ搬送したが死亡した。	60101	1～9

1999	7	14 ～ 15	気温約32℃、湿度約64%の環境下の河川堤防において、過日刈り取った枯れ草を集める作業を行っていたところ、意識不明状態に陥り約2日半後に熱中症で死亡した。	30199	30～ 49
1999	8	13 ～ 14	国有林内で風倒木処理で、ワイヤー掛け作業に従事していた者が疲労気味に見えたのでブルド?ザのオペレーターが昼休みを早めて休憩し、昼食をとるように指示したが、午後の作業再開後も姿が見えないので探したところ、土場の下側林道脇で倒れていた。	60209	50～ 99
1999	7	14 ～ 15	道路管理として、前日に除草したものの集積運搬及び除草作業をしていて体調の異常をきたして意識障害となり、翌日に死亡した。	30106	30～ 49
1999	7	14 ～ 15	屋外において、電線くずのかたまりから太い電線と細い電線とを選別する作業を行っていて熱中症になった。	11109	10～ 29
1999	8	16 ～ 17	工場内(60坪)において、仕上がった製品(鉄製の型枠)の寸法をメジャーで確認する作業を行っていたときに、突然うつ伏せになって倒れ、熱中症により死亡した。	11209	1～9
1999	7	11 ～ 12	杉植生林の下刈り作業で、昼時間になっても休憩場所に戻らず、作業場所より不自然な刈払機の音が続いていたので見に行ったところ、前かがみにうずくまっていたので、救急車で病院へ搬送したが熱中症で死亡した。	60209	100 ～ 299
1999	7	11 ～ 12	アスファルト合材を電熱ヒター付きサイロ状の貯蔵タンクの合材が固まっていたため、下部より電動ピックで合材を突き崩して穴を空け、タンク内に入って合材の除去作業をしていたときにタンク内で倒れた。	11702	1～9
1999	6	11 ～ 12	解体を終えた地中梁配筋用足場の整理を地上で行っていたが、大汗をかき、足元がふらついていたので、職長が休養をさせ、休養を終えて、立ち上がり数メートル歩いたものの道路上に倒れ込んだ。(熱中症)	30201	1～9
1999	6	15 ～	鉄塔建設現場において、鉄塔のボルトの本締め作業を行っていたところ、両手の筋肉痛がしたので地上に降りて清掃作業を行ったが、その後鉄塔上でボ	30209	10～

		16	ルト締め作業を終えて降りてきた作業員が鉄塔の下で仰向けで倒れているのを発見した。		29
1999	5	14 ～ 15	建築工事現場の屋根上において、鋼板を曲げて加工した屋根材をコロ台の上を転がして葺く場所へ運搬する作業に従事していたところ、気分が悪くなって日陰で1時間程度休憩したが回復せず、熱中症により死亡した。	30201	1～9
1999	3	14 ～ 15	直径3.6m、深さ3.2mのタンク状の古紙離解機に投入した古紙角荷の荷締め番線を切り忘れたため、梯子で中に入り番線を切断して引き抜こうとしたときに、70℃、4.9立方メートル、か性ソーダ濃度0.1%離解機中に転落し熱傷した。	10601	30～ 49

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210_31.htmlに戻る。